

令和3年豊能町議会9月定例会議
決算特別委員会

会議録

令和3年9月2日

豊能町議会

令和3年豊能町議会9月定例会議
決算特別委員会

年月日 令和3年9月2日(木)
場所 豊能町役場 大会議室
出席委員 6名
寺脇 直子 西岡 義克 中川 敦司
井川 佳子 秋元美智子 高尾 靖子
委員外出席 永谷 幸弘(議長) 管野英美子(副議長)
欠席委員 なし

本委員会に説明のため出席した者は、次のとおりである。

町長	塩川 恒敏	副町長	川村 哲也
教育長	森田 雅彦	総務部長	仙波英太朗
まちづくり調整監	松本真由美	保健福祉部長	桑原 康男
住民部長	大西 隆樹	都市建設部長	坂田 朗夫
こども未来部長	八木 一史	こども未来部理事兼教育総務課長	入江 太志
吉川支所長	南 小百合	まちづくり創造課長	田中 久志
秘書人事課長	池田 拓也	総務課長	萩原 哲也
行財政課長	山内 拓	保険課長	岡本めぐみ
福祉課長	中谷 匠	健康増進課長	小森 進
税務課長	泊 進	住民人権課長	石井 慎子
環境課長	星原 健男	環境課主幹	杉田 庄司
建設課長	仲村 晴好	都市計画課長	田中 克生
会計管理者	上西めぐみ	こども育成課長	竹内 弘明

本委員会に職務のため出席した者は、次のとおりである。

議会事務局長	浜本 正義	書記	清水 義和
書記	田中 尚子		

本日の委員会に付された案件は次のとおりである。

令和3年豊能町議会9月定例会議付託案件について

1. 第1号認定 令和2年度豊能町一般会計歳入歳出決算の認定について
2. 第2号認定 令和2年度豊能町国民健康保険特別会計事業勘定歳入歳出決算の認定について
3. 第3号認定 令和2年度豊能町国民健康保険特別会計診療所施設勘定歳入歳出決算の認定について
4. 第4号認定 令和2年度豊能町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について
5. 第5号認定 令和2年度豊能町介護保険特別会計事業勘定歳入歳出決算の認定について
6. 第6号認定 令和2年度豊能町下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

開会 午前9時30分

○委員長（寺脇直子君）

皆さん、おはようございます。

決算特別委員会に先立ちまして、一言御挨拶を申し上げます。

初めに、新型コロナウイルス感染症につきましては、昨年以降全国的に急激に拡大している状況です。この深刻な状況に対しまして、緊急事態宣言が延長されております。今もなお、収束が見えておらず、予断を許さない情勢が続いております。引き続き、皆様におきましては感染防止に取り組んでいただきますようお願いいたします。

それでは、座らせていただきます。

昨日9月1日の本会議におきまして、決算特別委員会が設置されました。私、寺脇が委員長に、西岡議員が副委員長に選任されました。

決算特別委員会では、初めての委員長ということもあり、不慣れな点もあると思いますが、皆様の御協力のほどよろしく願い申し上げます。

決算の内容につきましては、多岐にわたっておりますが、予算が適正かつ効果的に執行されたのか、また議会における予算審議の趣旨が十分生かされたのか、さらには予算の執行が適切な時期になされたか、住民本位に事業が実施されたのかなど、着眼すべき点は多々あると思います。

委員の皆様におかれましては、これらの視点に基づいて審査をしていただき、委員会が円滑に進みますよう、お願い申し上げます。

また、理事者の皆様におかれましては、本委員会での審査の内容が、今後編成される令和4年度予算に反映していただくこと、また、監査委員の決算審査意見書にもありますように、危機的な財政状況を回避し、

持続可能な町政運営に取り組んでいただくことをお願い申し上げまして、開会の挨拶といたします。

ただいまの出席委員は6名であります。

定足数に達しておりますので、決算特別委員会を開会いたします。

委員会の開会に当たりまして、町長より挨拶がございます。

塩川町長。

○町長（塩川恒敏君）

皆様、おはようございます。

一転して足元のお悪い中、そしてお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。令和2年度歳入歳出決算書の御審査に当たりまして御挨拶を申し上げたいと思います。

令和2年、昨年のを振り返りますと、本当に新型コロナの対策、これに追われていたような記憶がございます。特に、予定しておりました事業の中止であったり、それから見直しであったりというような形で歳出を執行しなかったものもございますけれども、反面、臨時交付金を含めまして、経済対策でありますとか、それから幾多の事務をさせていただきましましたので、職員に際しては通常の業務にさらにプラスして頑張ったというところでございます。

今回の決算書に関しまして、皆さんの高配をお願いして、指摘も含めて、ぜひよろしく願い申し上げます。

○委員長（寺脇直子君）

ありがとうございました。

決算審査の前に委員長からお願いがございます。

発言の際は最初に挙手をしてください。

委員長が指名をしてから起立の上、質疑、答弁してください。

説明員は最初に所属と名前を言ってから

答弁をしてください。

審査の進め方は、第1号認定から第6号認定まで、順番に1議事、1処理で質疑、討論、採決の順で進めていきます。

説明員の説明におきましては、既に事業評価主要施策成果報告書や決算審査意見書が配布されており、委員の方は事前に十分勉強していただいていると思いますので、昨年度における新規事業や、大きく変わったところ、また特に説明をしておきたい点を重点に説明をしてください。

数字の朗読は特に必要ありません。

委員の質疑は、簡単明瞭をお願いします。

また、説明員は質疑に対し簡明な答弁、説明をお願いします。

なお、一般会計から特別会計への繰出金は特別会計で審査していただきますので、一般会計での説明は不要です。

委員会は本日9月2日と明日9月3日、予備日が9月7日でございます。

委員長としましては、第1号認定から第6号認定までをできるだけ円滑に審査したいと思いますので、皆様の御協力をお願いします。

今年度もコロナ禍での決算委員会となります。常任委員会の対応と同じく、距離を置いて座っていただくため、通常の形からは変更しています。またマスク着用をしていただいておりますが、発言の際にもマスク着用のままでお願いします。

1時間ごとに休憩をとり、換気をさせていただきます。

傍聴につきましては、スペースの関係上、委員会の会場には入っていただけませんので、傍聴定員10名全て音声傍聴となります。

説明員につきましても、審査の最中に入れ替わっていただくことがあるかと思いますが、御協力のほどよろしくをお願いします。

以上のように進めていきたいと思いますが、御質問はございますでしょうか。

(「質疑なし」の声あり)

○委員長(寺脇直子君)

ないようですので、円滑な議事進行に御協力をお願いします。

それでは、第1号認定から順次審査します。

歳出の議会費・総務費から審査しますので、関係する職員以外の方は退席し、自席で待機をお願いします。

暫時休憩を入れながら入れ替わっていただきます。

これより、本日の会議を開きます。

本日の審査日程はお手元に配付のとおりでございます。

第1号認定 令和2年度豊能町一般会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。順次説明を求めます。

最初に、第1号認定の人件費事業を御説明願います。関連しますので第2号認定から第7号認定の人件費事業も一括で御説明願います。

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長(池田拓也君)

おはようございます。秘書人事課の池田です。よろしく願います。

そうしましたら、一般会計、特別会計に係る人件費の決算状況について御説明いたします。

参考資料といたしまして、事業評価主要施策成果報告書の5ページの表、一般会計のみになりますが、御覧いただきたいと思っております。

まずその一般会計ですが、同表の給料、職員手当、共済費の合計は約16億7,826万円で、前年度と比べ約2,679万円の

減となっております。ただし、この表の職員手当には年度により差が大きい退職手当や、会計年度任用職員の期末手当や、議員の期末手当も含めており、また、共済費には会計年度任用職員の社会保険料も含めておりますので、これらを除きました町長、副町長、教育長を含む常勤職員に係る人件費を改めて申し上げますと、合計で約1億3,962万円となりまして、対前年比約580万円の減となっております。

また、同様に常勤職員に係る特別会計の人件費は、約1,159万円で、前年比約755万円の減となっております。

これら全ての常勤職員の会計の合計は、令和2年度決算が約1億4,121万円、令和元年度決算が約1億5,456万円、比較いたしますと約1,335万円の減となっております。

減少の主な要因でございますが、新型コロナウイルス感染症対策の財源ということで、特別職の職員の給与月額を令和2年5月1日からの1年間減額したことによる令和2年度分の給料地域手当、期末手当の減、高年齢層職員の退職による給料月額の減、職員の生活実態の変化による扶養手当の減、時間外勤務手当の実績減、管理職勤務手当の実績減、先ほど申し上げました、高年齢層職員の退職に伴う給料が減少していることに伴う期末手当の減などがございます。

あと増加しております主な要因でございますが、職員の生活実態の変化による住居手当の増、令和2年4月に機構再編をいたしましたことによりまして、管理職の数が若干増えておりますので、管理職手当の増となっております。

また、令和2年につきましては、7月豪雨工事災害復旧事業と公園施設の災害復旧事業の時間外がありまして、これが実績増となっております。

なお、退職手当につきましては、約2億7,456万円で、前年と比べ支給対象者の減により約2,460万円の減となっております。

続きまして、会計年度任用職員に係る人件費でございますが、秘書人事課で所管しております会計年度任用職員の報酬、期末手当、費用弁償の合計は一般会計で約2億8,567万円となっており、前年比約4,207万円の増となっております。

増加の主な要因でございますが、令和2年4月1日から会計年度任用職員制度が開始したことによりまして、期末手当、費用弁償が増しております。また、新型コロナウイルス感染症対策で実施しました特別定額給付金事業、プレミアム商品券支給事業、子育て世帯臨時特別給付金事業の各事業で事務補助を採用したことによる増となっております。

次に、減少の主な要因でございますが、令和元年度は大阪府の知事選挙、府議選挙及び参議院の選挙がございました。令和2年につきましては、その選挙がございませんでしたので、その分による減、あと外国人指導助手の任用実績の減、DV相談員の実績減ということになっております。

また、特別会計における会計年度任用職員の報酬、期末手当、費用弁償の合計は約3,870万円となっており、前年比約140万円の増となっております。

増の主な要因でございますが、先ほど申し上げました一般会計同様に、令和2年4月から会計年度任用職員の制度が開始したことにより、期末手当、費用弁償が増ということでございます。

あと減少しております主な要因でございますが、介護保険会計における地域支援事業、包括支援、任意事業等で任用実績の減ということになっております。

人件費の説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

○委員長（寺脇直子君）

人件費事業の説明を受けました。

これより質疑を行います。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。おはようございます。

人件費がらみの話を今ずっとされていましたが、それぞれの内容で細かく質問をさせてもらいたいと思います。

決算書の86ページをお願いいたします。総務管理費の目10防災諸費、この中で、節3の職員手当とありますけども、この職員手当、これも人件費というふうに捉えてよろしいのでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

防災諸費の人件費事業の職員手当の中にある時間外と管理職特別勤務手当、これにつきましては人件費と考えていただいて結構でございます。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

まず節3の職員手当の予算減額で530万円、それに対しまして、実際の支出額が68万8,916円ということで、予算の段階とかなり大きな差があるんですけども、このあたりは何か要因があるのでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

防災諸費の今、御指摘を受けております職員手当の時間外勤務手当と管理職特別勤務手当でございますが、災害が起こったと

きに要るであろうと、なかなか予測が立てにくい予算費目でございます。昨年もここで乖離があるということで御指摘を受けていたんですが、一応これぐらいの金額があれば、職員が万が一のときに出たときに、こちらのほうから、お支払いする手当としては賄えるであろうという額で毎年この額を計上させていただいております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

ということは、この項目に関しましては少なくとも良かったねというふうなことで捉えていいということではないですか。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

この項目につきましては、決算ゼロというのが一番美しいというか、望むところかというふうに考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

同じく人件費がらみということで、続きまして、決算書の98ページをお願いいたします。

これは款2総務費、項7人権推進費の目1人権推進総務費、これの節1報酬、予算減額が188万7,000円に対して、支出済額が3分の1の74万5,708円となっていますけども、このあたりの大きな差は何と考えられますか。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

人権総務費の報酬の額が令和2年の決算額がかなり少ないという御指摘だと思っておりますけれども、ここの報酬の決算額が少ない理由ですが、相談員が途中で退職しましたので、決算額が少なくなっております。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

同じく人件費ということで、決算書の102ページをお願いします。

款3民生費、項1社会福祉費、目1社会福祉総務費の節1報酬、これが予算段階では723万7,510円という金額に対して、決算の支出済額が約半分の417万6,146円ということで、結構少ないんですけど、このあたりの要因は何でしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

不用額がかなり出ているということで、各費目で御指摘をいただいているところなんですけど、実際の人件費の予算というものは、これぐらい必要であろうところを担当課とヒアリングをしまして、必要分だけを予算措置をさせていただいているところなんですけど、実際に任用を開始したときに、例えば4月1日から任用する予定であったけれども、まだその事業の開始がちょっと延びるというようなこと、あるいはフルタイムで希望していましたが、フルタイムでの任用がなかなか難しく、週2とか週3で来ていただくということによって不用額が出ているということでございます。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

ということは、ほかにも私全部チェックして、えらい少ないなというのを見つけているんですけども、みな右へ倣えのような答えになりそうだとということなんですかね。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

予算額に対して不用額が多い理由につきましては、先ほど申し上げました理由が主な理由にはなってくるんですけども、この分、不用額に残さず、減額補正をというようなお話もありますので、そのあたりはまた次年度以降検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。おはようございます。

さっき説明していただいた中の一番最後のところで確認したいんですけども、会計年度職員のところで、確かこれは介護保険のところの担当職員が減ったのかな。余った理由。そここのところの説明をお願いしたいんですけど。私が聞き間違えているかな。一番最後の説明です。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

先ほどの決算の説明で、いちばん最後の部分で特別会計のところの御指摘でよろしいでしょうか。

介護保険特別会計におきまして、私の説明では、地域支援事業と包括支援事業で不用額が出たという説明をさせていただいているかと思うんですけど、これは先ほどとち

よっと同じような御説明になるんですが、実際に任用し切れなかったというところが正確なところでして、本町に限らず、専門職の確保というのが課題になっておりまして、募集をかけるんですが、例えばフルタイムの職員でかけるけれども週3しか来ないとか、そういうことによって不用額が出ているということでございます。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

決算どうこうではなく、全体にかかるんでしょうけど、会計年度任用職員、変わりましたね。ボーナスが出たり何かで。それによって収入がアップして、それでフルタイムで働くのはやっぱり厳しいという、今までお一人でやっていたところを町としてはお二人雇わなくちゃいけないというふうな流れも出てきているように聞いているんですが、これはそういうことも含めた今回の決算として見させていただいてよろしいですか。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

御指摘のとおり、会計年度任用職員の制度が始まるまでは、例えば、扶養の範囲内で働くと、扶養の範囲内ということになりましたら、月額10万8,000円の範囲で働くと、ですので非常勤であれば例えば週3日来れていたと、ところが令和2年4月から会計年度任用職員の制度が施行されたことに伴いまして、同じような勤務日数をしていただいたときに、期末手当が支給されるというふうに制度が変わっておりますので、期末手当分が総収入額に上乘せされてくると。ですのでちょっと扶養からはまず抜けたくないという前提でこちらのほう

に申入れをしてこられますので、このあたりはお勤めしていただく方に不利がないように、人事部局のほうでも対応している結果、どうしても日数が少なくなるというようなことでございます。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

そうなるとやっぱり行政の、特に専門的なところというのは非常に支障を来してくると思うんです。ですので今後どうされるのか、やはりきちっと煮詰めていただきたいと思いますので、よろしく願います。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

今の件なんですけれども、再任用の方が途中で具合が悪いということで辞められる場合もあったりしていると思うんですけれども、そうした後のフォローというのはどのようにされているんでしょうか。再任用で頑張ってもらっていた方が、そこは忙しいところで仕事をされていたと思うんですけれども、その後、辞められたということがあったと思うんですけど、その事務のフォローは職員のどなたかがされてきたのか、改めてパートなりを雇用されてフォローしているのか、その辺をちょっとお聞きします。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

今、再任用職員が途中で退職をしたときの人的にどういうふうな対応をされているかという御質問だと思うんですけれども、特に一般職、再任用、会計年度任用職員と問わず、業務に必要であろうという職員を

配置させていただいております。ただ、何らかの理由でお辞めになった後というのは、本来ですとそこにまた一人職員をすぐにでも配置させていただきたいというふうには考えているところなんです。正職でしたら例えば人件費的な問題も当然出てくるというのと、年度途中ということではなかなか採用試験のほうですぐにできないということもございますので、所属と話しながら、一定期間を置いて会計年度任用職員を配置するというような対応をとらせていただいております。所属によっては、その対応を待たずして、部内、課内で職員間でもう一度ちょっと仕事のやり方の見直しなどをかけていただいて、対応いただき、人件費を抑制していただいているという所属もございます。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

秋元委員もおっしゃいましたけども、そういうところのフォローができるような体制、負担がかからないような、また長時間の仕事で遅くなるというようなことにならないように配慮すべきだと思いますので、よろしくをお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

西岡副委員長。

○副委員長（西岡義克君）

人件費のほうで、一般質問でも出ていましたけども、時間外勤務手当ですね。これはかなり大きいということなんですけども、どの部署で、時期的には、例えば決算の時期だったらいろいろ残業してやらないかということもあるんですけれども、どの部署でどれぐらいのあれで、多い部署はどんなんだ、その原因は何なのか、その辺が分

かったらお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

時間外勤務手当の所属別にどこが多いかというお話でございますが、申し訳ございません。所属別の時間外勤務手当の時間数というのは手元に資料はございません。ただ私どものほうでは、時間外勤務手当の支給の事務も当然しておりますので、どの所属がどの月にどれぐらい多いか少ないかというのは当然見た上で、こちらのほうからあまり時間外が多い所属につきましては、所属長を通じてそういうものが改善できないかかというふうな話はさせていただきます。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

西岡副委員長。

○副委員長（西岡義克君）

皆さん頑張ってください、やっぱり今厳しい状況なので、そういう意識の中でやっていただいているとは思いますが、一般質問でも出ましたように、9時頃に来たらまだ電気がついているということもあると。一般的にシビックプライドとか言っていますが、そういう意識改革、上下の信頼関係、その辺にもよると思うんですけれども、私も一般質問でもしましたけども、頑張る職員に報いられるような企業体系、そういう制度の見直しも必要だと思うんですけれども、いかがですか。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

議員御指摘のとおり、時間外勤務手当を支給すればいいというものでは当然ござい

ませんでして、当然、働き方改革で時間外勤務を少なくさせていけという名の下、こちら豊能町のほうも取り組んではいるところなんですけれども、なかなか減りにくい部署につきましては、やはりまず所属長と話をしながら、適正な人員配置をしてというところでやっていきたいというふうに今考えております。

○委員長（寺脇直子君）

西岡副委員長。

○副委員長（西岡義克君）

別に減らしたらいいという部分じゃなくて、やっぱり効率的に、頑張っているんだったらそれだけのことができるような体制。何も時間外手当が云々じゃなくて、効率的にやってもらったら、別に要るものは要るんだから。だから職員のやる気ができるような体系、体制を作ってほしいなど。これは要望しておきます。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

それでは私、委員長のほうから質問します。

人件費事業なんですけれども、令和3年度はこの経常収支比率が99.8%で、本町は非常にこの経常収支比率も人件費も含めて、類似団体と比べたらトップレベルに高い状況になっています。特に1万9,000人の町なんですけれども、一部事務組合や水道や消防の広域事業なども含めて、委託費とかもそれらを足すと10億円ぐらい歳出で出ているように思うんですけれども、この人件費事業の今後の改善策と、本町の今後の推移、トータルで見て、類似団体と比べて高くなっているという要因をどのように分析して、改善していこうと考えているのかお伺いします。

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

一般質問でも御質問をいただいていたところだと思うんですけれども、町の類団比較をしていただいたときに、豊能町のほうは他団体に比べて高いという御指摘なんですけれども、一般質問の答弁でありましたとおり、ここの役場に勤務している職員と、あと出先施設に出ている職員と、という区分がございまして、例えば本庁の職員については類団比較はかなり低くなっているとかそういう状況にありまして、本町の場合は類似団体比較というのは規模とかそういうもので類似団体というのが決まるんですが、本町の場合は東西に町がございまして、吉川支所のほうで幾分か本庁機能を持たせるというようなところがあって、どうしても職員数が多くなっているとか、あるいは幼稚園・保育所、清掃現場につきましては、直営の職員のみでやっているというようなところが上がっている要因であるというふうには分析はしております。

ただ、高いままでいいというふうな認識も当然しておりませんでして、今後、そういう機能を下げなくて、この率を下げるにはというようなところは、今後検討はしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。よろしいですか。

それでは次に、一般会計歳入歳出決算書の歳出の66ページ、議会費から、88ページ総務費、総務管理費、自治振興費までを御説明願います。

順次、説明を求めます。66ページから88ページです。

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

決算書の68、69ページ、事業評価主要施策成果報告書の25ページを併せて御覧ください。

事業評価主要施策成果報告書の人事給与管理事業中、小事業の人事給与システム更新事業といたしまして、約184万4,000円を支出しております。

この事業につきましては、現在使用しております人事給与のシステムの期間が令和2年の8月で終了となったことから、同年9月から新たに5年間の債務負担行為を設定いたしまして、そのうち令和2年度に支出した金額でございます。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

山内行財政課長。

○行財政課長（山内 拓君）

おはようございます。行財政課、山内です。よろしくお願いいたします。

私のほうは、決算書73ページ、主要施策成果報告書、52ページをお開きください。基金管理事務事業でございます。

3の主な成果の欄に記載してありますとおり、財政調整基金積立金は、前年度繰越金の2分の1の額、3,246万円をつみたてております。

毎年、各基金の運用収入分をそれぞれの基金に積み立てておりましたが、令和2年度におきましては、事務処理を失念しておったため積立てができておりません。

令和2年度の各基金の運用収入分につきましては、今議会の一般会計補正予算に計上させていただいております。議会の議決をいただきましたら、議決後、速やかに事務処理を行い、基金への積立てを行う予定をしております。よろしくお願いいたします。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。どうぞよろしくお願いいたします。

決算書の83ページ、それから83ページの6の企画費の11。事業評価成果報告書39ページの特別定額給付金事業になります。

12の業務委託料で主なものとしまして、給付金システムの構築費、これを1,215万4,450円、それから18・負担金補助及び交付金の特別定額給付金、これが1人10万円の分なんです、これが総額19億2,050万円、こちらを支出しております。

続きまして決算書87ページ、目10・防災諸費の2、主要施策報告書の43ページ、防災対策事業になります。12・委託料、保守管理委託料のうち防災行政無線の保守管理委託料として874万2,690円、こちらを支出しております。

それから次に、小事業になりますが、防災備蓄品整備事業としまして、計画的に整備する食品、水、災害用トイレやランタン、それから手指消毒剤などを購入しまして、10・需用費の消耗品や17・備品購入費の庁用器具費などで合計219万1,000円を支出しております。

次に、防災行政無線遠隔操作機能追加事業としまして、14・工事請負費から210万9,800円、こちらを支出しております。これは遠隔操作により自治会等が防災行政無線子局の単独放送が行えるように整備したものでございます。

次に、ため池ハザードマップ作成事業としまして、12・委託料、業務委託料のうち、440万円を支出しております。これは吉川、山ノ神上池・下池にかかるため池ハザードマップを作成したものでございます。これは大阪府の耕地事業補助金、これ

を全額活用しております。

次に小事業ですが、新型コロナウイルス感染症緊急対策事業としまして、避難所用のテントやベッド、感染症対策グッズなどの購入で10・需用費、消耗品より約448万7,000円、それから次亜塩素酸水の生成器、こちらの購入で17・備品購入費、機械器具費より約66万8,000円を支出しております。

それから次に、無人航空機購入事業としまして、画像解析用PC及びソフトウェアの購入で17・備品購入費、庁用器具費より約81万7,000円、それからドローン本体の購入で17・備品購入費、機械器具費より約26万3,000円、それからドローンスクールの受講費2名分などで18・負担金補助及び交付金の各種研修会負担金として約49万4,000円を支出しております。

総務課からは以上です。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

おはようございます。まちづくり創造課の田中です。

それでは、まちづくり創造課関係の決算及び主要な施策の成果の主なものにつきまして御説明いたします。説明が前後して申し訳ございません。決算書79ページのほうにお戻りいただきたいと思っております。

決算書79ページ、事業評価主要施策成果報告書18ページの2・政策推進事業でございます。この事業の主なものとしては、業務委託料としまして、現在、策定中の総合まちづくり計画策定支援業務委託としまして497万2,000円、それから投資及び出資金としまして、昨年7月に設立いたしました地域新電力会社であります株式会社能勢・豊能まちづくりへの出資金、

150万円の支出でございます。

次に決算書、同じく79ページ、事業評価主要施策成果報告書19ページの町政PR事業でございます。この事業の主なものとしては、本町に対しましてふるさと寄附を頂いた寄附者に対する返礼品等の費用といたしまして650万8,240円を支出しております。

次に、決算書、同じく79ページ、主要施策成果報告書は20ページでございます。地域活性化事業でございます。この事業の主なものとしては、地域の課題解決や地域の魅力を発信していくために総合戦略に基づくシティプロモーションの推進、それからトヨノノレポーター事業、トヨノノ応援会事業に係る業務委託としまして349万9,000円を支出しております。

次に決算書81ページ、事業評価主要施策成果報告書21ページになります。地域公共交通促進事業でございます。この事業の主なものとしては、路線バスの豊能西線、阪急バスになりますけれども、それからリレー便の運行にかかります阪急バスへの補助金と東地区デマンドタクシーの運行にかかります京都タクシーへの補助金として2,880万5,588円、それから昨年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら、平日ダイヤを維持していただいたということに要した費用に対する緊急支援といたしまして、阪急バス及び京都タクシーに対して補助金を別途286万4,000円を支出いたしております。

次に、決算書83ページ、事業評価主要施策成果報告書23ページになります。産官学連携プロジェクト、高齢者健康寿命延伸事業でございます。この事業の主なものとしては、高齢者の見守りですとか、フレイル予防など的高齢者健康寿命延伸事業を大阪大学と実証研究事業といたしまし

て実施したものでございます。この業務委託としまして800万円を支出しております。

次に、決算書83ページ、事業評価主要施策成果報告書24ページになります。町外在住学生支援事業でございます。この事業の主なものとしましては、新型コロナウイルスの流行によりまして帰省などが難しい豊能町出身の町外に居住する学生に対しまして、豊能の地場産品を給付する事業といたしまして、学生支援ふるさと便というのを送らせていただきました。それにかかりました費用といたしまして31万3,350円を支出しております。

まちづくり創造課の説明は以上となります。よろしくお願ひします。

○委員長（寺脇直子君）

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

住民人権課、石井でございます。

恐れ入ります、決算書81ページの企画費の女性活躍推進事業、主要施策成果報告のほうは110ページになっております。少しお戻りいただくこととなりますが、よろしくお願ひします。

女性活躍推進事業につきましては、女性のエンパワーメントや暮らしの満足度の向上を主たる目的とするものでございます。主な事業としましては、人材育成事業とシティプロモーション推進事業、こちらは先ほどのまちづくり創造課との共催の2つの事業が主な事業でございます。

人材育成事業につきましては、3年目になります、「とよのわたし研究室」という人材育成事業を行いました。最終年度、3年目の集大成としまして、大阪府町村長会との共催事業としまして、わたし研究サミット事業の内発的イノベーション型まちづくりフォーラムを実施いたしまして、こ

れまでの人材育成事業等について学識経験者などより助言をいただくような事業を行っております。

シティプロモーション事業につきましては、トヨノ応援会としまして、まちづくり創造課と事業を進めてまいりまして、町内でこういうことをしたい、こういう事業についてどのようにやっていったらいいかという助言や伴走しての支援という形で事業を進めてまいりました。

主な事業はこの2点でございます。以上です。

○委員長（寺脇直子君）

南吉川支所長。

○吉川支所長（南 小百合君）

おはようございます。吉川支所、南でございます。よろしくお願ひいたします。

決算書85ページ、主要施策成果報告書は176ページでございます。併せて御覧くださいませ。

目7・支所費、2・支所庁舎管理事業の工事請負費の吉川支所積算電力計増設工事でございますが、町の水道事業が大阪広域水道企業団に移ったことによりまして、電気量の使用量を明確にするためメーターを設置したものでございます。なお、工事費用の2分の1を大阪広域水道企業団に負担していただいております。

次に、吉川支所トイレ洗面台自動水栓化工事でございますが、新型コロナウイルス感染防止対策といたしまして、トイレの洗面台9台を自動水栓に取り替えたものでございます。

次に、吉川支所駐車場整備工事でございますが、第1総合駐車場閉鎖に伴い、公用車専用駐車場でございますが吉川支所前駐車場の一部を来庁者用にするために、安全対策としまして、現場にガードレールを設置し、また吉川交番横の空き地を公用車専

用駐車場として整備したものでございます。

説明は以上でございます。

○委員長（寺脇直子君）

これより質疑を行います。

井川委員。

○委員（井川佳子君）

おはようございます。井川です。

いろいろあるんですけど、まず決算書69ページ、成果報告書25ページの人件費つながりでお聞きいたします。

ここに細かくどのような人材を応募して、受験して採用した人数も書いていただいていますので、とても分かりやすいんですけど、この中で豊能の在住者という方は何人採用されたのか聞きたいです。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

令和2年度に私どもで実施いたしました職員採用試験の合格者のうち、豊能町に住民票を置かれている方につきましては、6名。採用試験を実施するときに申し込んでいただいている住所というのは、例えば大学の下宿先からとか言うことがありますが、この6名というのは入庁した職員の現住所地ということで、豊能町6名となっております。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

6人に入っていたということでもしいことでございます。

決算書71ページ、主要施策成果報告書が26ページです。職員研修をなさっていらっしゃると思います。様々な職員研修をされているんですけど、この中でちょっと見えてこないのお聞きしますが、例えば、話し方の研修というか、そういうような講師

を呼んで研修に努めていらっしゃるんでしょうか。私はそんなに感じないんですけど、よく私の家に電話がかかってくるのが、今、窓口で電話したらねと言って、こうこう言われて腹が立っているのよという腹いせの電話がその流れで二、三件時々かかってくるんです。私はそんなふうには思わないんですけど、その方がそういうふうなことに敏感な方なのかというのはちょっと分かりませんが、やはり一生懸命業務をなさっている中で窓口で対応されるのはとても大変だとは思いますが、話し方一つで例えば相手の気持ちの火に油を注がなくてもよかったというのもあると思うので、そういう話し方研修というのは行っていらっしゃるんでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

本庁で実施しております研修につきましては、年度当初に研修計画というものを作らせていただきまして、それに沿った研修を実施させていただいているところでございます。

令和2年度につきましては、今、御指摘がありました、話し方の研修、接遇研修になるかと思うんですが、については、令和2年度の研修項目としては対象とはしておりませんでした。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

様々に研修などしなければいけないことがたくさんあるとは思いますが、予算をこれから考えられると思うんですけど、接遇のそういう講習も一度行っていただけたらと思います。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

私のほうからは、決算書71ページで成果報告書の27ページをお願いします。この成果報告書の27ページの小事業名が福利厚生事業ということで、これは職員の方の健康管理の健康診断のことを書かれておりますけども、対象者が281名で受診者が223人ということで、残り約60名ぐらいの方はこの診断を受けておられないんですけども、別途個別にきちんと受けていただいておりますので、そのあたりの確認をお願いいたします。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

職員の健康診断につきましては、町で実施いたします職員健診を皆さん受けていただくのが一番いいんですが、これとは別に人間ドックという制度がございます、それのみを受診される方、あるいは両方受診される方という形になっております。

令和2年度の職員が健康診断、人間ドックを含むを受けた、受けていないというところですが、実際のところ、人間ドックも職員の健診も受けていない職員につきましては27名おります。特にその27名の方を対象に、こちらのほうから受けなさいというような個別通知というものはしておりません。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

その受診されていない方、あえて受診してみたいなことは言っていないということ

ですけども、何かそれは理由があるんですかね。何かやっぱり年に1回はきちっと健康診断を受けておくほうが私は好ましいかなと思っているんですけど、そのあたりはどのようにお考えでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

常勤、非常勤を問わず、健康を維持しながら業務に従事していただくということは基本中の基本だというふうには考えております。従来、なかなかその未受診者に対しての個別通知というものができておりませんでしたので、今後、この未受診者をなくすように、どういうふうにしたらいいかということは検討してまいりたいと思います。以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

ではその同じ項目で質問いたします。この健康診断の種類なんですけど、一例を申せば、35歳以上の項目が多くて、35歳以下はそんなになくてというような受診方法もあります。そういうのを取り入れていらっしゃるのでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

年齢区分に応じた受診項目という形では設けておりません。全職員、同じ項目としております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

その項目というのは、35歳以上の方が

受けるべき項目に合わせて、35歳以下の方の項目も増やしているということなんですか。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田です。

すみません、先ほどの発言で全員同じと申し上げましたが、胃部健診につきましては、自身でそれをしたという方については実施ということになりますので、それをしたくないという職員についてはその項目というのは除外されていると。法定でしなければならないというふうに決まっている分につきましては、当然、法に基づいた上でその検査項目というものは実施しております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

81ページの女性活躍推進事業のことでお尋ねします。ここは100万円の流用が出ていますね。何か事故的なこと、計画が何か違ったのか、そのあたりの御説明をお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

住民人権課、石井です。

こちらの流用につきましては、もともと「トヨノドリーム」という形で町に在住とか町のためにこういう事業をされたいという方に対しての、前年度までは補助金という形で支援しておりましたが、そちらを業務委託のほうに替えまして、専門家によるアドバイスや支援といった、物とかお金

で支援するというわけではなくて、アイデアとかその事業実施に向けた支援に振り替えたため業務委託料に流用したものです。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

あまり理解できなくて。当初予算とは違った使い方をしたという理解でいいんですか。よりこっちのほうがいいかなというふうな形で替えられたのかな。

○委員長（寺脇直子君）

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

住民人権課、石井です。

はい、議員のおっしゃるとおり、そのほうが今後、住民さんたちが各自そういう自分のしたい事業とか、そのやり方何かを身につけてもらうためには一時的な物資とかそういった面での支援ではなく、そういうやり方、ノウハウを引き続き長く身につけていただくためにということで、まちづくり創造課と一緒に事業を展開させていただきました。ですので、当初の予算のときは違う使い方をさせていただいたものです。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

この成果報告書の53ページをお願いします。決算書でいきますと75ページになるかと思います。この中の小事業名でいきますと、地方公会計システム導入事業、これに当たるのかなと思いますが、これはこのシステムそのものが一定年度経過すると決算統計などの作成作業や資料づくり、新地方公会計制度などに対応できなくなる可能性があるということでこういうふうなことをされているのかと思いますが、この新地方公会計制度、ちょっと今滞っている

かと思えますけども、システムが変わる、新たになることによって滞っているやつがスイスイとうまくはかどって作成できるというふうなことになるのでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

山内行財政課長。

○行財政課長（山内 拓君）

行財政課、山内です。

今までは総務省が配布しておりました地方公会計標準ソフトウェアを使っておりました。それが令和4年の3月31日までの使用になっておりましたので、民間のシステムを導入しまして、今回この59万4,000円という決算が上がっております。

こちらのシステムにつきましては、近隣の市町村もよく使っているシステムでありまして、今の財務会計システムからのデータ移行もしやすいということで、このシステムを導入しておりますので、今はまだ作成中なんですけれども、スムーズに作成できると考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

前も一般質問で申し上げたことがありますが、大体この何か他の業務を優先するとすると、どうしてもそれが滞ってしまうというふうなことを、前の総務部長からも御回答いただいたようなことがございまして、そういった意味で、もっとどんな業務が入ってもできるような、そういうふうな方法ということで私は一つ、予算編成段階に仕分しておくという、そんなことも提案はさせてもらいましたけども、そういうふうなこともやっぱり考えていかなあかんのちゃうかなと思うんですけど、そのあたりはどうなんですか。

○委員長（寺脇直子君）

山内行財政課長。

○行財政課長（山内 拓君）

行財政課、山内です。

先ほどもちょっと説明させていただきましたが、財務会計システムのシステムと新地方公会計システムの、今ちょっと違うシステムを入れております。財務会計システムからCSVでデータの吐き出しをしまして、それを新地方公会計システムに取り入れるということができるという確認を取っておりますので、スムーズなデータ移行はできるのかなと考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

83ページの報告書のほうの23ページの産官学連携プロジェクト高齢者健康寿命延伸事業、これはいつかテレビで放映されて、タグカードのだったですね。それはそれでいいんですけども、頑張っていたきたいんですが、ここの800万円というのは、ここの23ページの右側に書いてあるこれを全部含めた金額と書いていいですか。つまり、町のほうからタグ代ですか、配付料とか、そういったものは一切出でなく、全部この800万円の中に収まっているという理解でよろしいですか。

これはまたアンケートとかそういったものなどは今後どうなっているのかも含めてお願いいたします。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

この産官学連携事業につきましてはの御質問なんですけども、まず昨年度実施済みの事業といたしまして、見守り救急タグカー

ドの配布ということで、これは269名に配っております。それからコロナ禍におきます高齢者生活実態アンケートということで、これは1,290名に対しまして、高齢者のアンケートを行っております。それとフレイル認知症予防ということで、AIロボットによります認知機能トレーニングを行ったアイトラッキングの実施ということで、ここが途中でコロナ禍の緊急事態宣言の関係で途中でこれが中止ということになっておりました。それとあと啓発事業といたしまして、国保診療所長、大阪大学教授との対談ということで、ここまでが終わっております事業で、この800万円のうち、500万円につきましては、3月に補正予算で予算を計上させていただいた分なんですけども、それにつきましては、この令和3年度に継続して実施していく事業ということになっておまして、今年度はその500万円で何をするかということでございますけども、救急タグカードにつきましては引き続き実施したいと考えておまして、昨年度、269名に配布させていただきましたけども、それをまた新たな形で配布をしていきたいと、これは引き続きやっていきたいというふうに考えております。

それからこのフレイル、認知症予防につきましては、昨年は生き生きデイサービスでやったんですけども、今年はどちらかというと予防というところに観点、中心を置きまして、町内にあります通いの場、これは6か所あるんですけども、このうちの2か所で約2か月から3か月の間、通いの場でこのアイトラッキングの実施をしていきたいなというふうに考えております。

それから、あとヘルスラボと言いまして、健康寿命延伸ということで、これはポピュレーションアプローチと言いますけども、広く健康寿命に関係した事業のほう、栄養

でありますとか、それから食とか運動でありますとか、そういったいろんな幅広い事業を展開していきたいというふうに考えておまして、御質問がありました800万円の中に全て入っておるといような状況で御理解いただけたらと思います。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

救急タグを作ったりとか配ったりとか、アンケートを印刷したり何か一切合切ですね。そのことをまずお聞きしたかったんです。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

一切合切ということで御理解いただきたいと思います。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

成果表の18ページ、決算書の79ページ、まちづくり創造課のほうの地域新電力会社設立事業なんですけれども、これが150万円上がっているんですが、これのメリットについては何か出ているのかどうか、お伺いします。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

こちらの事業につきましては、昨年の7月に設立した新電力事業ということで、8月19日ですけど、株主総会もありまして、総会の方にも参加してまいりました。そこでも報告をいただいておりますけども、まだ事業開始から10か月というところで、

その10か月の総括ということですので、
ております。その御報告をさせていただき
たいと思います。

まずこの新電力につきまして、売上高は6、
200万円でしたと、当期の純利益としま
しては550万円の赤字だったということ
でございました。これにつきましては、1
月に電力がかなり高騰しまして、その影響
を大分受けたんですけども、単年赤字には
なったんですけども、小売電気事業以外の
収入等もありまして、債務超過につきま
しては回避できたというところでございま
した。

今後は調達金額との固定化をいたしまし
て、市場がかなり高騰したときに対しまし
ても、リスクを一定程度緩和しながら事業
を進めていきたいという御報告を受けてお
ります。

今後なんですけども、そういったリスク
を回避していきながら黒字化というのは十
分に可能だということ、黒字になった
暁には、地域のまちづくりに関します事業
に展開していきたいというようなことの御
報告もいただいておりますので、始まった
ばかりの事業ですので、今すぐにメリッ
トというところまではございませんけども、
まずは経営を一定安定させて、その後、地
域のまちづくりに寄与していきたいとい
うようなことになっております。

以上でございます。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

せっかく新しい事業として豊能町が参画
されて発足したわけですから、これは成功
していてももらいたいなと思うんですけ
れども、今後についても今おっしゃいま
したけれども、いろいろな活用があると思
いますけれども、福祉車両何かにもこの電力が使

えるような充電スポットとか、そういうふ
うなことをぜひ、私が一般質問でも言
いたけれども、こういうところにも活用
できるようにやっていただきたいなとい
うふうに、これは要望なんですけれど、
ぜひそのようにしていただきたいなと思
います。
よろしくをお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

では今の項目でお聞きします。ここの今
の新電力のほうなんですけど、課題整理
のところ課題がないと、課題がなく進ん
でいるということなんですけど、我々も
の間、新電力の勉強会を聞かせていただ
いて、新しいことに取り組むということは
大事だと思います。でも、そのときにお
聞きしたら、豊能町から一人雇ってもら
えるはずが、募集しても来なかったのか
、その辺は分からないんですけど、ない
ということでしたけど、それは課題じゃ
ないのかなと思うんですけど、いかが
でしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

ふるさとおこし協力隊と申しまして、
能勢町のほうでは、今年度1名、ふる
さとおこし協力隊員が配置されて、こ
の新電力事業に対して業務をいただい
ておるというところでございます。

豊能町につきましても、豊能町の中
のまちづくりの事業に寄与していく
という意味からいいますと、地域お
こし協力隊というのを積極的に登用
していきたいんですけども、そこ
につきましてどのような形で募集
をすればいいかとかいうようなこと
をちょうど今練っておるところで
ございますので、また来年度の事業
に向けて、その辺につ

きましては考えていきたいというふうに考えております。

○委員長（寺脇直子君）

ここで1時間経過しましたので、暫時休憩を取って、換気等を行います。

再開は11時からでよろしいでしょうか。

（午前10時43分 休憩）

（午前11時00分 再開）

○委員長（寺脇直子君）

それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

ほかに質疑のある方。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

この成果報告書の21ページをお願いします。それから決算書では81ページになります。

この成果報告書21ページ、この中の小事業名が地域公共交通基本構想推進事業というこの内容でございますが、この21ページの右上の段の内容についての確認というか、質問になりますけれども、リレー便の延べ人数、利用者数は1万6,040人が利用されたということで、ただ前年度比28.2%減になっていきますということですが、このあたり、何か理由というか、要因は分かりますか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

リレー便の乗客数が減っておるという件でございますけれども、こちらにつきましても阪急バスのほうに聞き取りをいたしました。そうしましたら、コロナの影響で、リレー便だけではないんですけども、阪急バス全体路線でコロナの影響もありまして、乗客数が全体として減っておると、リレー

便についても例外ではなかったというような回答をいただいております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

じゃあ次に、その下のデマンドタクシーですね。これについては67人で逆に前年度比約39.5%増となっておりますけど、このあたり、何か要因はありますか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

東地区のデマンドタクシーにつきましては、大体、前年度、令和元年度、令和2年度と比較をしたんですけども、前の年の同じ月と比べましてもほとんど変わりはありません。9月、10月、この2か月間なんですけども、この9月、10月で一気に10人増えておったというような状況でございます。この9月、10月に何があったのかということでもいろいろ課内でも考えてはおったんですけど、今、これだという要因のほうは見当たらなかったんですけども、結果としましては、9月、10月で10人ぽんと増えておったというような状況で、それはなぜかと、その要因は何かというのは今後ちょっと探していきたいと考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

デマンドタクシーそのものの要因はまだもう少しばらく、この10人増えたというのが今後も続いて増えるのかどうか、そういったことも注視していただく必要があるんですけども、もしかしてデマンドタクシー

そのものを知らない方が、デマンドタクシー、こんな使えるんやみたいなのを初めて知ってお客さんになりはったみたいな、そんなこともあり得るんですかね。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

そういったケースもあるかと思えますし、土曜日とか日曜日、休日の利用もございましたので、ひょっとしたら町外の方が利用されているという可能性もあるのかなというふうに考えております。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

デマンドタクシーは町外もオーケーでしたか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

町外の方も乗っていただけます。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

もうしばらく状況の確認をし続けてもらって、もしも旧村地域の方がデマンドタクシーを知らなくて、それで初めて知って使い始めたというふうな結果であれば、やはりまだまだこのことをよく知らない方もいらっしゃる可能性があるから、そのあたり、しっかりと旧村地域の方に知ってもらって、使っていただけるような方向に持っていったほうがいいのかなと思います。特に旧村地域は高齢者の方が多くて、私もお会いしている方が八十何歳か、免許を去年返しましてんとか、そんな方もいらっちゃって、今までは車があって買物にも言ったけども、

今は免許証がないから行かれへんからと言って、そんな方もいらっちゃったので、結構奥のほうの方やから大変だと思うので、そういう方にもこういう制度をしっかりと知ってもらって、出ていくときに活用いただく、そういうことが必要かと思えますので、今後、もうしばらくウォッチしてもらって、状況を見て、また皆さんにお伝えいただけるようお願いいたします。

○委員長（寺脇直子君）

答弁はよろしいですか。

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

議員がおっしゃったように、免許証返納の課題ですとか、または学生とかもそうですし、自動車を運転できない住民の方にとりましては、非常に重要な路線と言いますか、移動手段であるというふうに考えておりますので、今後も効果的な広報、周知をいたしまして、利用促進を図っていききたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

引き続き同じ21ページで、引き続きで質問をお願いいたします。

成果報告書の左上の関連指標というコーナーがあって、そこの総合戦略というところに書いてある文面でちょっと質問させていただきます。

新規バス系統の開設数、2系統というふうに書かれておりますけれども、この新規バス系統の開設数、2系統、これはどういうふうな意味合いで捉えたらよろしいんでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

こちらにつきましては、平成28年3月に策定いたしました「まち・ひと・しごと総合戦略」に掲載しておるものなんですけれども、その中において、KPIということで、目標値として定めておる開設数が2系統というようなことになっております。

この意味合いなんですけれども、公共交通の基本構想というのを別途、交通施策をどのように進めていくかということで基本構想というのを立てておりました、その中で長期的な大きな目標として、能勢電と北急との接続、北急延伸に伴う能勢電と北急の接続ということで、2ウェイということで大きな目標を上げさせていただいています。その意味でこの2系統と、能勢電沿線の系統と北急から延びてくる系統との2系統という形で目標を立てておるところでございます。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

ということは、現状とさほど変わらない。ただ、能勢電とつながるか、つながらないかというその違いだけということですね。今の現状との違いは。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

そのお話にも関連するので、同じ成果表21ページで、地域公共交通基本構想のことなんですけど、改革の方向性といたしまして、箕面森町線の延伸は非常に厳しい状態となっていると書かれていらっしゃいますけど、今、そういう計画にもうたわれて、前向きに努力はされていると思うんですけど、どのような感じで厳しい状態になって

いるのか、まずはお聞きします。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

議員おっしゃったとおり、平成26年4月に公共交通の基本構想というのを立てまして、その中で短期計画、中期計画、長期計画ということで段階的に交通施策を進めていくという計画を立てております。

その中の長期計画、いわゆる最終目標というところで、北急の延伸に伴う箕面森町線の延伸というところを最終目標に掲げまして、取組を進めてきたわけなんですけれども、こちらのほうの課題ということで、今、調整に非常に苦慮しておるところでございます、我々行政から見た課題といたしましては、まずこの箕面森町の路線が、大阪府さんのほうが車両を購入いたしまして、いわゆる箕面森町住民のために走らせているといった路線でありまして、協議の中でもその箕面森町の住民の利便性を下げることにはできないというような協議の中身もございまして、

また加えて、その延伸をさせようと思いますと、町のほうでも新たに車両を用意して、確保して走らせなければいけないということもございまして、また一次交通事業者から見た課題といたしましては、運転士が不足しておる問題ですとか、採算性の問題ですとか、そういった課題がいろいろありまして、今、協議のほうに苦慮しておるというような状況でございます。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

箕面森町の方のためのおっしゃるのであれば、箕面森町の方が豊能町の公共施設、

例えば、シートス、ユーベル、あとは図書館というのを使うときの利便性にも貢献できますよというような売り言葉も持っていて、粘り強く頑張っていたいただきたいなと思います。この件でいかがですか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

議員がおっしゃったような内容につきましても、阪急バス、それから大阪府、それから箕面市を含めた勉強会、協議会等の場でも、そういったことも本町としてお伝えしておるところでございますし、また今後も引き続きそういった協議は進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

では同じ項目で別の質問に移らせていただきますが、豊能西線に1,000万円のお金を投入しているんですけど、この利用人数等を把握されていますか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

申し訳ございません、人数については今把握をしておりません。乗降者数については、今把握はしておりません。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

恨み言を申し上げるわけじゃないですけど、東西がなくなったときは、利用客がないからだと、その一人を運ぶのにすごいお金がかかっているから、費用対効果はなしということになっております。そう

いうことを思えば、豊能西線も利用客の把握もしていただきたいなと思います。もちろん、阪急バスさんの運営が立ち行かなければ、豊能はすごく困るというのは理解できます。なので、これが不用なお金と言っているわけではないです。ないんですけど、そのあたりも把握していただきたいなと思います。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

はい、今後、阪急バスのほうにその辺をお聞きしまして、把握に努めたいというふうに思います。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

今の成果報告書21ページのバスのことについてお尋ねします。

それぞれ1,000万円とか、1,800何万出していますが、これはただ補助金出すだけですわね。前に私が一般質問でさせていただきましたように、この金額のうちの一部でも回数券を阪急のほうから出させていただいて、そして75歳以上の「おでかけくん」を利用していない人に配布したら喜ばれるし、町も傷まない。1,000万円ですから。阪急も傷まない。もともと乗らない人が乗ってくれるわけだから。という住民も喜ぶというふうな観点で進めていただきたいと思うんです。

なぜこれを言うかということ、阪急も正直言って、私の予想ですけども、いつまでもこの町で動いてくださるとはちょっとはつきり言って厳しいと思います。そうするとこの町としてもやっぱり阪急の乗客を増や

していく。ですから、おじいちゃん、おばあちゃんには回数券を配って、それで附随して子どもや何かと一緒に乗ってもらう。お金を払う人ですね。そういうふうな方針を立てていく必要があるんじゃないかなと思います。いかがでしょうか。

ですから、この補助金のより有効な使い方として今後考えていただきたいと思いません。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

議員の御指摘のとおり、今の我が町の公共交通といたしましては、非常に厳しい、赤字路線ということで、阪急バスとしましても非常に経営が厳しいですし、町としましても、赤字を補助金という形で補填していくというところで両者にとって非常に厳しい状況であると。今、このままその赤字をお互いが補填しながら運営していくというのは非常に厳しいというところから、今年度、大阪府と本町とそれから阪急バスのほうで勉強会というのを開催いたしまして、今後の公共交通の在り方というのを一緒に考えていこうと。行政だけでも阪急バスだけでもできませんので、一緒になって考えていこうということで勉強会ということで始めておるところでございます。その中でも、今出しておる補助金の中でも何か違う方策ができないかですとか、そういったことも含めて、高齢者の問題は非常に課題として大きいので、ラストワンマイルと言いますか、最後のラストワンマイルの移動サービスというところも非常にささやかれておりますので、そういった今後の交通の在り方というのを検討していきたいというふうには考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

ぜひ補助金の有効な生かし方として、お話を進めていただきたいと思います。要望で終わります。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

成果表の20ページ、決算書の79ページのまちづくり創造課のほうで、地域活性化事業で住宅流通多様化促進事業です。

ここの住まいの相談室があるんですけども、移住で空き家バンクというような概要説明が書いてあるんですけども、ここに成果としてはこの間、どのような成果が上がっているのか、また新しく若い方たちが、先日の一般質問では、塩川町長が希望ヶ丘に若い人たちが引っ越ししてきているというようなお話もありました。そういうことがこの中にはまだ入っていない。令和2年のですから、まだここには入っていないかもしれませんが、どのような成果があったのかお願いしたいと思います。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

この住まいの相談窓口事業の令和2年度の実績ということでございますけども、まず成約の件数といたしましては、こちらにも記載しておりますが、売買の方で1件、それから賃貸のほうで5件、計6件の成約がございました。成約までは至らなかったんですけども、マッチングと言いまして、要は紹介をさせていただいて、最初はお話がまとまりませんでしたけども、マッチングとしましては11件のマッチングをいたしたという実績でございまして、なかなか

豊能町の場合、空き家は1,000件ぐらいあるんですけども、それが市場のほうに、流通のほうになかなかのってこないというようにこともございまして、難しいところではあるんですけども、引き続き、啓発等していきながら流通の促進をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

毎月の広報とよのには住まいの相談室のチラシがよく入って、よく目にするんですけども、そういう中からも電話なりの問合せ何かがあるということでの成果もあるんでしょうか。その点をお伺いします。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

電話相談というのももちろんございまして、電話相談が必ずしも成約というところにつながるところまではなかなかいかないんですけども、まずはそのきっかけというところですね。住まいの相談窓口を使っていたら、町内の状況、空き家の物件だけではなくて、豊能町はどんなところであるかとか、どういう町であるかとかということも含めて、電話の中でもお話をしておると言うようなことも聞いておりますので、そういったところは今後も引き続きやっていきたいというふうに考えております。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

同じ住宅流通のこの部分で質問させてもらいますけれども、この4番の課題整理、課題の内容ということで、空き家バンク登

録件数の増加に向けた取組ができていないというふうにございますけれども、要は空き家バンク制度はあるけれども、そこにしっかりと空き家を売るとか貸すとかいうお客さんの情報提供がなかなか進まない。だから物件が少な過ぎるというふうなことというふうにも聞いたように思いますが、その理由としては、やはりなかなか空き家そのものが流通できない何かいろんな事情がおりのお家が多いというふうにも思うんですけど、そのあたりはそれで合っているんでしょうかね。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

この空き家バンク制度、全体といたしまして、例えばですけども、大阪市とか堺市とか大きな都市、そういったところには空き家バンクという制度がないんです。それは何でかといいますと、一般の不動産屋さんのほうで流通しているから、市場にどんどん、どんどん物件が出てくるから空き家バンク制度というのをする必要がないというところやっていないところもあるんですけど、ただ我々本町といたしましては、なかなかそういった流通する物件が少ない、なので空き家バンクというのは、どちらかというとは本来は流通に乗らないような、いわゆる掘り出し物件みたいな、そういったものを空き家バンクのほうに載せておいて、例えば格安の物件がありますよとか、そういった一般の市場の流通とは違う路線で流れていくというのが一般的な空き家バンクかなというふうに認識しておるんです。

御質問の主旨であります、なぜのってこないかということなんですけど、いろいろ要因はあると思うんですけど、例えば相続のほうでできていないとか、あと息子さ

んなり、娘さんなりが遠方に住んでいて、まだ実家のほうの荷物が入ったままでなかなか整理ができていないとか、そういったのもいろいろ聞きますけども、そういった状況がありまして、空き家のまま置いてある。もしくは、まだお父さん、お母さんはおられるんですけども、施設に入っただけとか、そういったこともございますし、いろんな要因があるんですけども、そういったところも踏まえまして、できるだけ前段階で相談ができるような、ただ単に売買とか賃貸の物件を出して、はい、マッチングというのではなくて、まず前段階でのそういった整理の仕方でありまして、相続の相談とか、そういったところも考えていけないのかなというふうに考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

そしたら、そういう空き家を持っておられる方が、それぞれ課題はあるんやろうけども、そういう課題がない状態の方が空き家を持っておられて、それを売りに出そうか、賃貸にしようかといった場合に、そしたらこの空き家バンクを選ぶか、もしくは通常の民間の不動産屋さんにお問い合わせみたいなこの二通りがあるのかなと思えますけども、そういった場合はどうなんですか、一般の不動産会社のほうに登録するという流れのほうが多いんですか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

現状では不動産屋さんのほうに登録されるほうが多いと思います。今後ちょっとこの仕組み、仕組みと言いますか、空き家バ

ンク住まいの相談窓口の制度と言いますか、在り方というのでも考えていけないと思っております、要はお互いがそのお客様を取り合うというようなことではなくて、豊能町としていかに人に来てもらえるような形で、全体としてうまく回るような仕組みというのでも考えていけないのかなというふうには考えております。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

課長が初めにおっしゃっていましたように、空き家バンクというものがもともとは、これは変わった物件ですよみたいな、安い物件ですよとか、そういうのをどちらかという扱うのがこの空き家バンクなんだよというふうな言い方をされていたので、そういった意味では、私はもっともっと実績として売買が10件だとか、賃貸が30件とか、そんなのを私は本当は夢見ておったんやけども、課長が言っただけの特異な物件というか、そんなだけの空き家バンク制度やったら、当然こんな小さい数字で当たり前かなというふうに思うんですけども、そういった意味ではやっぱり、今課長がおっしゃっていたように、もっともっと活躍してもらえるような方向性、そんなのもしっかりと考えていけないとあかんのかなと思ったりもしているんですけども、そういった意味では、この空き家バンクに登録する、しないは、持ち主の方のあれで決まっちゃいますけども、こういうのがあるからどんどん載せたらどうですかみたいな、そういうふうな働きかけも当然それはしたりもするんでしょうかね。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

今現状としましては、固定資産税の納税の通知を送る際に、管理されている方が町外に住んでおられる方に対してましては、そういったチラシなんかを同封させていただきまして送らせてもらっているところです。

民業圧迫ということも考えますと、あまりこっちへ、こっちへというようなこともなかなかできないというのが現状なんですけども、先ほど申しましたように、全体としてうまく回って、豊能町に人が入ってきてもらえるような制度設計というか、そういったことを今後考えていきたいというふうに考えております。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

先ほどおっしゃってましたように、いろんな課題を抱えています。各家ごとに相続の問題とか、もろもろのいろんな課題を抱えているから、それを解決しないかというふうな部分のお話もさっきされてましたけども、そういった意味では、私が取り上げた寝屋川市の空き家流通促進プラットフォーム、いろんな専門家が集まって、1個、1個の課題を解決していくという、そういうのもしっかりと取り組んでいく状態なのかなと私も思うんですけど、そのあたりはどうなんでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

松本でございます。

今のお話なんですけど、本当にそのように豊能町、行政だけでできるものではないというところにきているなというのは感じております。

町としてしていかないといけないことは、町の地価を落とさない。今、地価が非常に

落ちてしまっていて、各おうちの価格が下がってしまっております。これに疲弊されている住民の方も多いというふうに聞いております。

トヨノノ応援会事業をした中でも、町内の不動産会社さんが、そのまちづくりの取組と一緒に取り組んでいきたいということで、トヨノノ応援団に入っていただいた不動産屋さんもいらっしゃいます。

そこから思いますと、委員がおっしゃっていますとおり、行政だけではできないと、そういうプラットフォーム、協議会を立ち上げて、何らかの形で一緒に取り組んでいかないといけない、そういう時期が来ているのではないかと感じておりますので、今後はそちらについても検討してまいりたいと思います。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

決算書87ページ、報告書の43ページのところです。防災無線についてお尋ねします。

ちょっと先に確認させていただきたいんですけども、12番の委託料の保守管理委託料、これは既に建っている防災の保守管理だと思うんですけど、その下の業務委託料は何かということをお尋ねしたい。

それと、先ほどの説明で14の工事請負費のところの210万9,800円、これは自治会が単独で放送できるようにするというふうな、その工事だという説明でしたね。今後、追加したことによって、またこの保守管理委託料が発生するのかどうか、まずこの2点をお尋ねします。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

まず業務委託料に関してなんですが、これはいろんな小事業が重なってしまっていて、先ほど、保守管理委託料はもちろん防災行政無線の保守管理ということで大きな額がかかっているんですが、残りの業務委託料に関しましては、ため池ハザードマップの作成事業、これが440万円。それから防災行政無線システムのメディア改修事業、こちらの8万6,900円。こういったものが入っております。

あと防災行政無線の遠隔操作機能の追加工事なんですが、これは先ほどもお話しさせてもらったと思うんですが、自治会のほうでもともと子局のほうで直接スピーカーで放送するという自治会の単独放送というのがあったんですが、それをわざわざ子局まで行かずに、遠隔で操作できるというようなどころとなります。

保守管理料というのは、もちろんその機能を追加しましたので、若干増えることとなります。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

さっき、ため池は400万円と言っていましたね。分かりました。だから大体この400何万円になるんだということで理解させていただきました。

それで、防災無線は相変わらず聞こえが悪いですね。うちで言うならば、外にいたら全く聞こえません。2階にいて西、北窓でやっと聞こえるぐらいです。何かないって北側に移ったら、こういうことを言っているんだぐらいなんです。あそこの5丁目で。うちのところで。相変わらずこの聞こえが悪い中で、あれが限度ですか。も

うちちょっと何とか聞こえを良くしようというふうな取組はされているのか、あるいは聞こえているかどうか調査されているのか。800何万円かけていますけど、このあたりはいかがですか。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

前からちょっと聞こえにくいというお話はいただいておりますが、その聞こえにくいというところで、放送のテンポをゆっくりしたりとかいうふうな工夫はさせてもらっています。

あと聞こえにくいということで、ほかのスピーカーと共鳴したり、山に跳ね返ったりとかして聞こえにくいとか、そういったところはあるんですが、計画上、できるだけ聞こえるようにということなんですが、気象条件とか、そういったもので毎回聞こえにくいのが出てきたりというのがあるのかなというふうに思います。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

個人的なことになっちゃうけど、共鳴とかそういうレベルじゃないんです。何か向こうのほうで音がしているなど、なんだろうという気がして、ああ防災無線が何か言っているぞと。ですから何か言っているぞとしか耳に入らない。全く分からないんです。うちのあの近辺は。

やっぱりこれはきちんと調査をしていただきたい。私はたまたまこういう場に来させていただいているから、こうですよと言えますけど、それを言えない耳に届かない方はいっぱいいらっしゃるので、まずそこから辺をきちんと。そういう業務委託料は入

っていないんですか、点検のときに。チェックというんですか。単に機械が正常に動いているかどうかの業務委託料なのかな、この金額は。中身をお尋ねします。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

点検というのは、各子局とか親局とか、そういったスピーカーがちゃんと正常に動くかどうかというチェックになりますので、全体的に聞こえにくいとか、そういうのは一斉に鳴らしてやるわけではないので、そこまではちょっとチェックできていない状況です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

単純に考えても900万円かかっていますね。これはさっき個別、自治会にしたわけですから、これにまた追加できますわね。次年度は多分900万円を超えていると思います。予想ですよ。そうすると、そこまでかけてあの機能はないと思います。はっきり言って。

もう1点、やっぱり町のほうに考えていただきたいのは、使い方です。単に災害の情報だけじゃなくて、この間、いみじくも菅野議員が質問されていたように、町の中で今動くのに、こういうふうにな勢電が止まっていますとか、それから本当に大嵐のときに放送してもあまり意味がないんですけども、477号線は通行止めになっていますとか、そういうふうなことというのは無理ですか、使い方として。もっと幅を広げていく、住民の役に立っているなど思っていたくためには。このあたりはどういう検討になっていますでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

防災行政無線、メインはやはり災害の情報、例えば避難情報とか、そういったものをお知らせするのがメインということですので、国道のほうは通行止めとか、ああいったものはホームページであるとか、必要な人にいくという意味では、たんぽぽメールを登録していただいたら、それであれば夜とかでも送っても大丈夫なのかなというふうに思いますし、またこの防災無線を実際に放送するのに、やはりすぐにぱっとやろうかと思ってもなかなかできないところがありますので、ほかの国道の情報とか、そういったものはなかなかちょっと適さないのかなと、すぐに対応できないというところもありますし、適さないのかなというふうに思っております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

防災無線ですから、ただ肝心のその防災無線を使うときに、暴風雨でね、日頃でも聞こえない。確かコロナか何かのときの放送だったかな、あのときは。はっきり言って分からなかった。何か言っていますねと、ですから今このところを問題にしているんですけど、ですから、肝心の防災のときにはもっと役に立たない。役に立たないものに、大変失礼ですけど、お役に立っていないのに900万円をつぎ込むということに対して非常にもったいないなと思うんですよ。だから町として、防災だからということじゃなくて、より広げるような方向を考えていただきたいという、要望なんです。これは私の。分かりますか。防災無線だから防災だけみたいなことをおっしゃら

ないで、ぜひぜひ、ちょっと今後考えていただきたい。要望で終わります。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

その防災行政無線の件で確認というか、質問ですけども、この間、何の放送だったか忘れちゃったけども、私は東ときわ台の家におりまして、ああ何か鳴っているなみたいなので聞いておりましたら、いつもと何か違うような感じがしまして、何が違うって言ったら、以前は多分全ての無線から一斉に音が鳴っていて、いろんな音が混じり合って、いわゆる干渉をして、何かウワンウワンみたいなことがあったと記憶しているんですけど、この間聞いたら、1回目のときは、こっち方向から聞こえてきて、2回目はこっち方向から聞こえてきてみたいな、そんなふうな聞こえ方をしたような感じがするんですけど、それは何かあえてそんなふうにあえて、1回目はこっちから放送して、2回目はこっちの機械から放送してみたいなことを努力してやってはるのかなと思ったりもしたんですけど、そのあたりはどうなのでしょう。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

スピーカーの放送なんですけど、幾つかありますけど、同時に同じ放送を流してしまうと、近くのスピーカーと共鳴してしまうので、多少時間をずらして動かすことでちょっと聞き取りやすくなるというような工夫はしております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

同じページなんですけど、戸別受信のほうを伺います。

令和2年度決算額が86万4,000円でして、見間違えていたらあれなんですけど、当初予算が確か206万7,000円だったと思うんですけど、もし聞こえないお家はこれを御利用いただく、37台設置したと書いてあるんですけど、これは設置したい目標台数に対して、そんなに設置できなかったという理解でよろしいんですか。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

そうですね、大分普及してきたのかなということもありまして、毎回、避難行動要支援者名簿というのを年末に担当課から受けまして、そちらの対象者と、あとはレッドゾーンにお住まいの方に向けて通知をして、希望のある方は申請をされるということで、もう既に持っている人は申請しないので、ある程度必要な方に大分行き渡っているのかなというふうに思います。なので、実際に申請の件数が大分下がってきたというところかなというふうに思います。以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

では206万円の予算に対して、86万4,000円の執行額だったということなんです。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

議員おっしゃるとおりです。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

では、レッドゾーンの方とか、それから対象者の方には普及できたのかなと思われるのであれば、それこそそういう方でなくても、もうちょっと対象者を広げて、やっぱり聞こえない方にこれを勧めていくという方法が在りかなと思うんですけど、これは予算委員会じゃないんですけどね。今後に向けていかがでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

そうですね、レッドゾーンの方と避難行動要支援者の方が対象であったんですが、今度はイエローゾーンの方にも対象を広げる予定にしております。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

そこにこだわらなくても、聞こえなかったら意味がないわけで、聞こえない人に対象者を広げたほうが、それも一理あると思いませんか。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

残りの台数もありますし、またそれを増やし過ぎて、また新しく買うとなるとまた予算が増えてくるというのがありますので、そのあたりは残りの台数も含めて検討していきたいというふうに思います。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

予算書の87ページ、成果表の43ページの防災対策事業のところ全般でいきます。

自主防災組織100%となっていることで、すごい全体にまとまっているんだなとうれしく思っております。一時、皆さんが高齢化してなかなか作れないというところで苦労なさっていたところがあるんですけども、これは完全に各自治会で組織が立ったということなのか、ちょっと確認したいと思います。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

目標が100%ということなので、まだ自主防災組織が全部の自治会に設置されているというわけではございません。一部の旧村とかでまだできていない。住宅街の自治会は全て終わっております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

旧村のほうで高齢化でなかなか組織ができないというのは聞きましたけれど、やっぱりそれはずっとそのまままきているということなんでしょうね。それがどのようにフォローができるかというところは、そういうところの計画というか、対策ができるのでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

まだ旧村で自主防災組織というのを立ち上げていないところというのは、普段から近所づきあい、顔の見えるお付き合いとかできていて、実際にはそういう組織はできていないけれども、災害時とかでは助け合える、共助とかいうことで対応できるから、特にあえてそういうところまでは進め

ていないのかなというふうに思っております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

ぜひ皆さんが、本当に安全に対応できる
よう充実させていっていただきたいと思
います。

それともう一点、ちょっとお願いします。
成果表の一番最後の改善点というところ
ですけれども、ここの従来から私どもが
求めておりました専門知識のある職員
さん、特に電気関係ですね。この間、
電算機なんかが停電によって具合が悪
いというようなこともありましたけれど
も、専門的知識のある職員さんとい
うのはなかなか採用は難しいという
ことなんでしょうかね。ここにちょっ
と反省点として書いてあるんですけど。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

専門職の採用ということでございますが、
電気にかかわらず、いろんな分野で
専門職を必要とするというところなん
ですけれども、その専門職を必要とす
る頻度によりまして、なかなか財政も
苦しい中というところもありますので、
一般職でできる範囲のものは一般職
でと。業務が専門職にしかできない、
そういう業務が常にあるというような
ものにつきましては、そういった専門
職を雇うというところで検討してまい
りたいと思います。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

この間のように、電算機の調子がちょっ

と、住民票とかそういうところが発行
できないということをお聞きしてあり
ましたけども、そういう事態が起こら
ないような体制を、やはり何か起こ
ったときにはすぐにとれるように、
ぜひとも対応していただきたいと思
います。これは住民皆さんのことに関
しての問題になると思いますので、
ぜひとも充実をお願いいたします。

以上です。これは要望です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

同じくこの成果報告書の43ページ、
決算書の87ページです。小事業名
で無人航空機購入事業ということで、
ドローンの購入をしましたというふう
な御説明がございましたけども、実
際にドローンを購入されて、ドロー
ンの活用とか、そのあたりを何か
もう既にやっているというようなこと
はあるんでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

ドローンの購入については、令和2
年度末に行いまして、まだ日がそこ
まではたっていないんですけども、
まずテスト飛行のほうを1回させ
てもらいまして、その後、8月に入
って、6月に木代地区の土砂災害
とかの復旧工事が終わったので、
その現場のほうがちやんと終わっ
ているかどうか、その状況をドロー
ンを飛ばして、動画を撮っています。

また今度、9月下旬に大阪府のほう
も交えて、同じようにドローンを
飛ばして、一緒に見させてもらおう
と、動画を撮るといったようなこと
を予定しております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

確か4Kカメラって言ってましたっけね。結構映像はきれいなんですかね。どうなんでしょうかね。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

そうです、4K対応の分です、写真とかであれば200万画素であれば5,000枚ぐらい撮れるようなスペックになっております。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

せっかく購入をしていただいたんですから、しっかりとこれからも、災害だけじゃないですけども、いろんな形で有効活用をしていただけるようお願いしたいと思います。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

決算書が77ページで、成果報告書が56ページの普通財産管理事業です。すみません、説明資料が56ページです。普通財産管理事業というのを上げていただいております、この草刈りというのは戸知山の草刈りも含まれていると思います。決算書のほうで確認したら。

要するに、毎年505万7,000円、業務委託料で戸知山の整備をされていると思うんですけど、もし何か使うときに、すぐに使える状態なのか、それを今日は聞きたいです。

○委員長（寺脇直子君）

山内行財政課長。

○行財政課長（山内 拓君）

行財政課、山内です。

この業務委託料につきましては、全体の普通財産の草刈りに係る費用になっております。戸知山についても草刈りを行っております、すぐに使える状態かと言いますか、使っていただける内容によるかと思えますけれども、一応、入って見ていただける状態にはなっているようにはしております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

すみません、私の理解で正しかったですか。戸知山だけで505万7,000円でしたか。

○委員長（寺脇直子君）

山内行財政課長。

○行財政課長（山内 拓君）

行財政課、山内です。

業務委託料につきましては556万円で、全て草刈りなんですけれども、西地区と東地区といろんなところが草刈りの対象になっておまして、戸知山だけというのは出せていないんですけれども、東地区に係る草刈りににつきましては、327万5,000円かかっております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

そしたら、東地区全体で371万円だから、戸知山だけには500万円かかっていないという理解なんですか。

○委員長（寺脇直子君）

山内行財政課長。

○行財政課長（山内 拓君）

行財政課、山内です。

議員おっしゃるとおりです。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

今、戸知山の話が出ましたけども、やっぱり誰かが来ても見られるような状況になっていますということなので、しっかりと戸知山を誰かに使ってもらおうという、そういうふうな働きかけはずっと今もされているということによろしいんでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

山内行財政課長。

○行財政課長（山内 拓君）

行財政課、山内です。

戸知山につきましては、活用したいということで、現場を見に来たりという方はおられるんですけども、実際に具体的にこういう活動をしていきたいというようなつながっている状態ではない状態なので、まだまだ今後もいろんな業者の方に来ていただいて、戸知山を活用していただけるような案を提案していただけたらと思っております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

別の項目にいかせてもらってもよろしいですか。

成果報告書の19ページをお願いします。それから決算書でいきますと79ページです。小事業名でいきますと、ふるさと寄附促進事業になるんですかね。この説明資料の19ページの右上の文章を読みますと、高額寄附者が減った関係で寄附総額は前年度を下回ったけれども、寄附者の数は前年度より増加しているというふうなことが書かれてありますけども、このあたり、高額寄附者が減って総トータルの金額は減っているけども、実際の寄附者が増えている。こ

れはどんなふうにかえたらいいんでしょうかね。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

収入が増えるという視点、収入を増やしていくという視点から考えますと、金額が多い高額で寄附していただけるというのは非常にありがたいことでございますし、一方、豊能町という町を応援していただけるという視点から見ますと、寄附者の数が増えるということは非常にありがたいことだということで、どちらも増やしていきたいというのが町の本音なんですけども、どちらも町にとってメリットがありますので、どちらも増やしていきたいというのが本音でございますので、今後も金額につきましても、寄附者についても上げていけるような視点で寄附促進を図っていきたいなというふうに考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

中川議員の今の質問と関連するんですけども、私はこれを見たときに、勝手にですよ、過去に寄附していただいた方にずっとアプローチをかけているんじゃないかなと思ったんです。それはかつて私自身が佐渡市にふるさと寄附したときに、あそこは毎月来ます。やれこうしています、あれしています。多分行かなくても船はこれだけ安くなりますとかね。お土産はこのお店はこう安くなりますと、年中、毎月送ってくるんです。ですから私は町もぜひそんな取組をしてほしいとお願いしたことがあります、あれからそういうふうな取組、要するにメールか何かで寄附してくださった方に

ずっとアプローチをかけているんじゃないかなと勝手に想像しているんですけども、そういうふうな取組はしていただいているのでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

令和2年度につきましては、そういった取組のほうができておりません。過去は文書を郵送で送るといったようなことをさせていただいておりました。すみません、昨年はできておりませんので、今後、そういった促進を図っていけるような取組をしていきたいというふうに考えています。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

同じ事業で聞きたいことがあります。先ほど、説明の中で、この寄附に対しての返礼品が640万円の金額だったとおっしゃっていますけども、ふるさと事業の寄附促進事業についてだけでいう収支というのは出していらっしゃいますか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

収支といいますと、ふるさと寄附金の入ってきた総額と、実際に返礼品とかサイトに対する委託料ですとか、そういった支出ということの収支ということでしょうか。

まず寄附金額につきましては、昨年度、令和2年度は総額で2,345万2,000円の寄附がございました。対しまして、支出というところなんですけども、1,011万6,882円、これは決算書のとおりなんです

けども、そういった収支を出しております。以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

開いてみたところ、66万円の寄附に対して羽毛布団が返礼品として返ってくるとかいうのを見ていました。だからこういう方たちが高額な寄附をしてくださるのかなと思うんです。地域を応援しようというのもあるし、申し訳ないけど、返礼品目的、でもそれはそれで別に町のためになってくれるんだったら私は別にいいとは思いますが、これから返礼品を広げていくことによって、それがまた地域の産物の掘り起こしにもつながるかなと思っております。

そこでちょっと思ったのが、サイトを見損ねたのかもしれないんですけど、名前を出していいのかな。切畑の加工品がいろいろ昔から生活改善の中で作っていらっしゃる。あれを見つけられなかったんですけど、令和2年のこの実績の中には返礼品としてはなかったんですかね。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

昨年度の返礼品の中にも、いわゆる切畑の夢工房さんの「かあちゃんセット」でありますとか、「かあちゃんセットとシルク21」、お米ですね、そういったセットというのも返礼品の中に入っております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

さっきの続きなんですけど、ふるさと寄附に対して、過去寄附してくださった方にそういうアプローチをしていないと御答弁

されてきましたね。私は自分自身があの質問をした後に担当者のほうへ聞きに行っているんですね。いやそれなりにやっていますというお返事をいただいていたんですね。その後に、ふるさと寄附が増えそうだと、確か補正をかけていたと思うんですが。ですからそういう成果かなと思って今に至っているんですけども、実はしていなかったと。これは職員個人が気を使って取り組んでいたというふうな認識でよろしいですか。それともどういうことになっているのか。私自身、ちょっと今理解できないので御説明をお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

過去はそういった寄附をされた方に対する、再度の寄附のお願いということも含めまして、そういった取組をしておったんですけども、令和2年度につきましては、促進の文書を送るですとか、そういった何らかのアプローチというようところがちょっとできていなかったという、令和2年度に関してはということでございます。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

では令和元年まではやっていたということですね。引継ぎができていなかった。ということかちょっと説明をお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

令和元年度はできておったんですけども、令和2年度に関しましてはできていなかったということなんです。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

ということは、令和元年はそれは効果がなかったというふうな受け取り方でよろしいですか。それとも引継ぎができていなかった。どんな理由で、していなくてこう伸びたわけでしょう。だから町としてどのように、はい、次やりますじゃなくて、どんな分析をして引継ぎをされなかったか、取り組まなかったのか、私はとても重要だと思いますので、説明をお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

まず令和2年度にそういった寄附促進の取組ができていなかった、失念しておったということにつきましては申し訳ございませんでした。

寄附者の人数が増えた要因の一つと考えておりますのが、ポータルサイト、寄附をするためのサイトがあるんですけども、今、豊能町の場合、ほとんど95%ぐらいがサイトを通じた寄附になっておりまして、窓口に直接というのは少ないんですけど、そのサイトを今、「ふるなび」というのを一つ追加させていただきまして、もともと「さとふる」と「ふるさとチョイス」というところと「楽天」という3つだったんですけども、それに昨年度「ふるなび」というのを追加いたしまして、より幅広い形での寄附ができるような形での取組をしたというのも一つの要因かなというふうに考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

私自身、あまり職員の方があれやこれやと忙しい思いをするのはちょっと気の毒だなと思っています。ですから、個別に働きかけて効果があるんだっただらぜひそうしてほしい。今おっしゃったように、「さとふる」で見てくださる方のチャンスを増やしたということですね。それによって効果があるんだと思うんだしたら、そちらのほうで分析していただいて、町として考えていただきたいです。

次の質問なんですけど、79ページのところで、説明書はちょっと分からないんですけど、下から4のところに地域活性化事業のところで、16万円流用していますね。需用費のところ。下のところの委託料から。これは予算を取っていないので、全く予算を取っていないんだなと思うんですが、これはどのようなことで急に必要となったのか説明をお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

業務委託料のところ、16万34円流用しておる件なんですけども、すみません、ちょっとこの金額につきましては調べさせていただいてもよろしいでしょうか。後ほど。

○委員長（寺脇直子君）

それでは、後ほど調べて。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

構いませんでしょうか。ちょっと確認を。

○委員長（寺脇直子君）

それでは、1時間経過しましたので、ここで休憩をいたします。

再開は13時からとさせていただきます。

（午後0時02分 休憩）

（午後1時00分 再開）

○委員長（寺脇直子君）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

午前中の秋元議員の御質問ですけども、即時回答できず、お時間いただきまして申し訳ございませんでした。

御質問のありました決算書の79ページの地域活性化事業の16万34円の流用の件でございます。この事業なんですけども、当初は町村振興共済事業ということで、町村長会のほうから200万円というお金を頂きまして、それを活用しまして、女性活躍推進事業で100万円、それからとよのまつりで100万円という事業を予定しておりました。このうち女性活躍推進事業につきましては実施いたしまして、とよのまつりにつきましては、新型コロナウイルスの流行のため中止となりました。これを受けまして、町村長会からほかの事業でありましても実施されるのであれば交付いたしますよというような御連絡をいただきまして、検討した結果、地域活性化の事業といたしまして、地域の幸せをつなぐまちづくり事業というのを行うことになりました。

この中身なんですけども、携帯をしながら町中を歩いてもらえるようなマップの作成ですとか、関連の事務用品の購入に充てるために、同予算事業の中で業務委託料の中から需用費のほうへ16万34円の流用を行いまして実施したものでございます。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

非常に分かりづらいんですけども、それはそれとしておいて、今言った、この16万

34円は、携帯で町中を歩けるような、何かを作ったんですか。それはちょっと成果品というのは記憶にないし、説明をお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

豊能マップということで、A4のサイズになるんですけども、両面刷りのカラーのものになるんですけども、マップの作成をいたしております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

分かりました。マップそのものをどういう形で住民に配ったか、何部作ったのか、どうしてこういう企画が上がったのか、お金を使っていいと言われたから作りましたみたいな話なので、どうなのかなと思っていきますので、まず成果品的なもの、何部、どちらに配ったのかをお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

まずこのマップにつきましては、1,000部作っております。この配布先なんですけども、事業の実施を決定いたしましたのが2月ということでございまして、なかなか時間のない中での執行だったんですけども、3月24日から26日の3日間におきまして、場所につきましては保健福祉センターとそれから永寿荘のほうで、いつもは保健福祉センターには毎朝とよの体操をしに来られている方々がいらっしゃったりですとか、この辺りはウォーキングの集合場所になっておったりですとか、たくさん人

が集まる機会があるということで、24日から26日のこの3日間でパンフレットの配布をいたしました。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

私からは別の項目でお願いします。評価成果シートの22ページをお願いします。決算書は81ページになります。小事業名が広域行政連携事業というふうな名前になっております。

これについては、何か大阪府からの権限移譲みたいな、そういうふうなことがこの右側のところに課題整理のところら辺で出てくるんですけども、前も何か私が一般質問で聞かせてもらったときに、職員の数はこれからだんだん減っていく傾向にあるけども、仕事もそれに比例して減っていているんですかみたいなことを聞いたら、いやいや、逆に増えているんですと、よく聞いてみたら、大阪府からいろんな仕事が権限移譲されてやってくるんですみたいな、そんな話を聞いたことがあるんですけども、今でも権限委譲と言いますか、そういったのが結構あるんでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

大阪版地方分権推進制度によります権限移譲なんですけども、単独処理と共同処理というふうなことがございまして、単独処理といいますのは直接市町村が受けている事務というのがありまして、今豊能町では49事務ございます。共同処理ということで、豊能地区の2市2町で、幹事市が池田の部分と箕面市の部分とあるんですけど、

この共同処理で受けておりますのが19事務となっております。

この事務につきましては、ちょっとここ最近では増えているというような傾向はございません。同じ事務量できておりますけれども、ただ、全ての事務を権限委譲で受けているわけではございませんので、今のところはこういう状況でありますけど、今後増える可能性もあるかなというふうには考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

権限移譲につきましては、これは単独で受けてねとか、これは共同でやってねみたいな、そういうふうな振り方になるんですか。それとも、いきなりこれをしてねみたいなのに来て、いやいやこれはちょっとしんどいからほかの地域と一緒にやりますわみたいな、そんなふうな検討をするという、そういうステップを踏むのか、それはどうなんでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

まず基本的には、単独処理のほうで受けてもらえないかというような話がまずありまして、その事務の内容によっては共同処理のほうでできないか。例えばどういうことかといいますと、専門性が高いようなものであったりですとか、例えば一つの市町村で受けるには事務の実績と言いますか、事務自体が少ないようなものでありますとか、そういったものについては共同で処理したほうがいいのではないかということで、それは2市2町の中で協議いたしましてやっていくというようなことになっておりま

すので、まずは一旦単独で受けるかどうかというところから入るのかなというふうに思っております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

事業移管というか、権限委譲で仕事やってくると、それ相応の費用も頂けているんですかね。それとも、いやいやちょっとしかお金はあげへんけども、これで頑張って仕事やってねみたいなの、そんなふうなことになっているんでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

この権限移譲事務の交付金につきましては、実績に応じて金額が決まるものでございまして、あらかじめ大阪府のほうから人件費の単価が幾らだとか、一定の単価が決められておりまして、あとは幾らその事務を処理したかというところで交付金の額が決まるというようなものでございます。実績がなければ金額も少ないということになるんですけど、実績があれば当然多くなるというようなものでございます。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

要は実績払いということなんですね。

○委員長（寺脇直子君）

よろしいですか。

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

流用のことばかり聞いて申し訳ないんだけど、83ページ、これは支所の分なんですけども、委託料のところ、保守管理委

託料とか清掃委託料、業務委託料、警備委託料、この中でその下に流用されていますね。18万何がし、10万何がし流用があるんですけども、これは予定していたよりどこの部分が足りなくなったのか。多分そういうふうな内容だと思いますので、説明をお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

南吉川支所長。

○吉川支所長（南 小百合君）

吉川支所、南でございます。

修繕料とかでよかったですかね。消耗品とかに流用させていただいているものなんですけども、いずれにもコロナ禍のアクリルのパーティションを購入したりとか、あとは業務委託料の流用の分につきましては、吉川支所の第2駐車場の案内板、第1駐車場を閉鎖しましたので、その案内板の設置に費用がかかりましたので、そちらのほうを流用させていただいております。

あとは3月18日から4月にかけて、シルバー人材センターのほうに駐車場の利用状況の調査委託をしております。こちらのほうも委託料のほうに流用させていただいている内容でございます。

以上でございます。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

流用は大抵、予算を超えたり何かということで、最初の見積りとちょっと違ったという意味合いと私は捉えているんですね。ですからよっぽど何か臨時的な、急用なことがあるのかなというふうに思ったので聞いているんですけど、今回このシルバーの駐車場、利用率を委託したんですか。どこの駐車場で、結果どういう形で今後しようとしているのか、幾らかかったのかお尋ねします。

○委員長（寺脇直子君）

南吉川支所長。

○吉川支所長（南 小百合君）

実施期間が3月18日から、令和2年度につきましては3月31日、平日10日間行ったんですけども、第1駐車場の閉鎖に伴いまして、第2駐車場だけで果たして満車になるか、ならないか。その調査をするべく第1駐車場は3月いっぱい使えるんですけども、そちらのほうをまず使わずに、第2駐車場から埋めていきまして、本当に満車になるかどうかの確認を、シルバー人材センターのほうに委託させていただきました。

その費用が18万7,040円でございます。

以上でございます。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに。

井川委員。

○委員（井川佳子君）

決算書71ページ、成果報告書27ページの福利厚生事業でございます。

職員の皆様の厚生会補助事業の実績は何でしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

福利厚生事業の実績ということなんですけれども、職員向けにまずお子様とかが入園とか入学とかされたときに厚生会のほうから記念品を贈る事業であったり、例年は職員間の親睦を図るということで、親睦旅行等を実施しておりましたが、コロナ禍ということがありまして、令和2年度については実施のほうを見送っているということでございます。

あと厚生会の実施する事業としましては、

これは職員の会費で賄っておる事業でございますが、人間ドックを受けた分につきまして、一定補助をするということをしております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

次にいきます。決算書73ページ、成果報告書30ページ、文化の日の表彰事業です。とよのまつり中止によって表彰できずとありますが、8,600円が上がっているんです。これは記念品ですよ。何人に配られたんですか。表彰式はなかったけど記念品は配ったということなんですか。

○委員長（寺脇直子君）

池田秘書人事課長。

○秘書人事課長（池田拓也君）

秘書人事課、池田でございます。

文化の日の表彰事業につきましては、例年、とよのまつりに合わせて開催をさせていただいていたところですが、とよのまつりのほうがコロナウイルス感染症の関係で中止となったということで、この表彰事業はまず実施はしておりません。

今御指摘をいただいております記念品でございますが、実は令和2年に長年産業医をお勤めいただいております小川ドクターが退任されまして、そのときにこちらのほうから感謝状を贈呈するときに記念品を添えてということで執行しております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

ほかにございませんか。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

私からは、成果報告書の40ページ、決算書は85ページになります。小事業名が行政情報化推進事業という内容になってお

ります。

ここの右側の課題整理というところ辺を見ていましたら、端末やプリンターの経年劣化による不具合発生頻度の増加という項目が書かれてあるんですけども、結構このような不具合が、どんな不具合が出ているのでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

行政情報化推進事業ですので、行政用パソコンとかプリンターとか、そういったものになるんですけども、前に更新してから5年以上たっていますので、プリンターであれば詰まったりとか、パソコンであれば画面上に筋が出たりとか、ちゃんと起動しなかったりとか、そういったことがあります。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

例えばパソコンだったらハード的な不具合ということですか。もしハード的な不具合だったらパソコンの買い替えが必要とか、そういうふうなことですかね。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

ハード的なものだけではないんですけども、例えば、うちにかかってくるというのは操作的に分からへんというところがかかってきたりとかいうのもあるので、そういった部分も含めてなんですけど、機械上に問題のあるものというのは対応に時間がかかるというようなことになっていまして、簡単な操作とか、機械の使い方の面で不具

合があるとかいうのであれば、それは出先であれば遠隔で対応したりとか、あとはそちらの所属で詳しい者に聞いてもらったりとか、そういうようなもので対応していたっているところなんです。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

今のお話を聞いていると、総務課のほうがいろいろ不具合が出たときに、いろんな人から不具合が出たら、全部総務課へ連絡を、ヘルプデスクと言ったら言い方が悪いけど、そんなふうな形に総務課がなっているんですか。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

はい、現状そのようになっておりますので、毎日とは言わないですけども、頻繁に連絡がありまして、そこで対応しているという状況ですので、今後は全部対応できるかどうかというのもなかなか難しいところがあるので、各組織でそういったITリテラシーとかいうのを底上げしてもらうような形で対応していきたいというふうに思います。

○委員長（寺脇直子君）

よろしいですか。

井川委員。

○委員（井川佳子君）

では次にいきます。決算書79ページで成果報告書19ページのとよのんPR活動事業です。ラッピング自動車の活用ってされているのでしょうか。実績は、主なものを教えていただきたいです。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

いわゆるとよのん号のことだと思うんですけども、昨年、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、いわゆるゆるキャラグランプリ等のイベントの参加ができなかったというところで、とよのんをそうやって活用したところの部分というのは少なかったかなというふうに思っております。ただ、公用車としての活用ということで、職員のほうが日々出かけるときにとよのん号についても活用しているというような状況でございます。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

すみません、町長、以前にこういう場にとよのん号に乗って府庁へ行っていただけますかとお話をしたことがありますけど、一度でも行かれたことはありますか。それとも、ちょっと乗るのはあれやから行っていないというようなことになるのでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

塩川町長。

○町長（塩川恒敏君）

塩川でございます。

御指摘のとおり、活用をしたいということでしたけれども、我々職員がたくさん乗るものではなくて、荷物を積むほうの車になっていますので、今はあの中で出張するというのは今までもありません。ただ一緒にとよのんと向かったときはありますけれども、そういう状態です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

かわいい車ですし、目を引きます。西で見かけたこともあったし、あっているというのが分かるので、公用車にシールを貼ると

いうアイデアを前に出したことがあって、今貼ってらっしゃるんですけども、それもあつし、全体にラッピングしている車というのは結構目を引くので、皆さんがお越しのところへ乗っていただけたらなど、乗り心地は悪いということなんですけど、またお考えいただきたいです。

とよのんPR活動事業なんですけど、コロナ禍でいろんなイベントというはなくなっています。令和2年の決算の中でもなかなかできなかったことも多かったと思います。でもその分、できることもあるんじゃないかと思っております。またこれから予算編成する中で、とよのんを活かして、例えばラインで動くスタンプを企画してみるとか、今動くスタンプとかないですよね。ありますか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

今、とよのんのラインスタンプはございますけど、動くものではなくて、固定のものなんですけど、動くものではありませんが、ラインのスタンプの活用ですとか、あとは昨年、とよのんグッズに新しく仲間入りということで、とよのんのオリジナルノートを新しく作らせていただきましたので、またそちらのPRもしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

今すぐにお答えいただかなくてもいいんですけど、また動くスタンプも作っていただいたら、いろんなところで活用できるんじゃないかなと思います。まず知っていただくことが大事で、豊能と能勢を一緒にし

てほしくないと思つうんです。もちろん能勢町さんはすばらしいですけど、能勢の隣って済まされるのが嫌なので、皆さんの努力もあるんですけど、またそういうところの利用方法も考えていただきたいなど、とよのんPR活動事業を見て思つました。よろしくお願ひいたします。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

行政評価シートの55ページ、決算書77ページをお願ひいたします。

この成果報告書の55ページの小事業名の1番になりますかね。庁舎等管理事業ということで、この役場の本庁舎の話がこの右側のページの下のほうに書いてございます。一昨日ですかね、一般質問でもこの公共施設の再編の話題がテーマとして質問されておりましたけども、その話の中で、公共施設再編検討委員会というのも立ち上げているし、あと職員の代表の方、課長クラスの方でも同じような検討の協議をしているというふうなことを伺いましたけども、最終的に結論としてはどうしていくんやというのはいつぐらいをめどに出されるのか。そのあたりの確認をお願ひいたします。

○委員長（寺脇直子君）

松本まちづくり調整監。

○まちづくり調整監（松本真由美君）

松本でございます。

施設の再編の検討についてなんですけど、本庁も含めてですけど、今年度につきましては、各施設をどのようにしていくかという総論をお出しいただいて、中間取りまとめを3月にさせていただくことにしております。

次年度につきましては、各施設について、今後どのようにしていくかということも、

分科会を作るかどうか、昨日の御質問でもありました。そのあたりも検討しながら進めていく予定にしております。

○委員長（寺脇直子君）

よろしいですか。ほかに質疑はございますか。

西岡副委員長。

○副委員長（西岡義克君）

決算書の73ページ、事業評価成果報告書の52ページの基金管理事業の積立金の中で、財政調整基金の積立金が3,246万円というふうになっておるんですけども、これは今回の町の予算は非常に厳しい状況にあつて、監査委員のほうからも非常にシビアな結果も出ています。同じく、この間説明いただいた健全化判断比率、これの中にも、今までかつてこんなことはなかったんやけど、監査委員から留意事項というのが書かれておるんですね。これぐらい財政調整基金が厳しい状況にあると。この間、皆さんにいただいた豊能町の中長期財政シミュレーションですね。これの中にも、財政調整基金が枯渇するというふうに推測されておるわけです。これはもちろん皆さん御存じのように、やっぱり少子高齢化の中で税収は入らないと、でも経費は要するという形で非常に厳しいと。その中にあつて、今回は3,246万円していますけども、今後、これはなかなか剰余金の2分の1をずっと積み上げられるのかと、私はこのままやったら難しいなど。これは後半の支出のほうで、入のほうでまた質問しますけども、今の状況でいけば、この評価表に書いてあるように、将来的に決算の剰余金を財源としているが、その歳入を依存財源に頼る状況ではなかなか難しいと。今後、具体的にどのような方向でこれを積み上げていくのか、もしくは、財政調整基金をできるだけ使わないようにするためにどうするの

かと。この辺の長期のシミュレーションみたいなものを今やっているのかどうか。

決算というのは別に賛成、反対じゃなくて、その次に生かすということで、いわゆるPDCAのCですわな。だから次のアクションに向けるために分析して、将来的にこうするというのを比較せなあかんわけです。

その辺、どの辺までいってるのか、どういうふうに考えているのか、ちょっとお聞かせいただきたいと思います。

○委員長（寺脇直子君）

山内行財政課長。

○行財政課長（山内 拓君）

行財政課、山内です。

西岡委員がおっしゃるとおり、豊能町の財政は厳しいです。黒字となって、今回の決算でも1億8,810万9,000円、実質収支が出ておりますけれども、中身につきましては財政調整基金を取り崩しての黒字というのを確保できている状態です。

この財政調整基金の積立金につきましては、令和元年度の実質収支の2分の1の額を積み立てておる状況でございます。この実質収支がいつまで続くのかということですが、豊能町の財政は、財政調整基金を取り崩さないような財政状況を作っていくために、行財政改革プランに2019であるとか、公共施設再編計画を今進めておりますので、その歳出を抑制して、何とか歳入に見合った歳出を作っていきたいと考えております。

以上になります。

○委員長（寺脇直子君）

西岡副委員長。

○副委員長（西岡義克君）

簡単に言うとそういうことやねんけども、これはシミュレーションでも出ておるんですわね。これでは何年先までやっているん

かな。ただ、令和2年はこれとはちょっと違うんですけども、豊能町のほうが良かったですわ。このシミュレーションでは10億1,300万円になってるけども、今回の令和2年度は15億2,900万円ですね。だから改善しているわけです。その辺を長期的にどうしていくのかと、具体的な策を一面だけやなくて多面的にやっていかな駄目やと思うんです。ただ単に入りを図り出を制するみたいなことを言ってもあかん。具体的に今、いろんな使い道も質問ありましたけども、その辺のことも含めて、総体的に検証して、やっぱり結果を出すには最終的に目標を決めてここにするとということ、一般に事前に公表してほしいと。そうすると議会のほうも協力体制が取れるんじゃないか。今まで中間報告とか、そういうのはあまりなかったような気がする。だからそういうことも含めて、一般住民さんにも今の現状が分かるように、やっぱりそういう手段、方法をとって、結果を出して、それにどこまでいっているのかとこののを住民さんに示して、住民、それから議会、行政が一体的にならないとこの町は駄目だと思います。その辺の取組を今後やってほしいと思うんですけど、どうですか。

○委員長（寺脇直子君）

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

こんにちは、総務部の仙波です。

先ほどの西岡委員の御指摘でございます。豊能町では、シミュレーションという形で毎年3月に財政推計を行っております。何で3月なのかというところですが、例年、当初予算を編成するのが大体3月議会に提案させていただいているわけですけれども、今から当初予算、この9月の議会が終わりますして、当初予算の編成作業に入りまして、

2月ぐらいにはおおよそ予算が固まります。2月に予算が固まって、その当初予算、いわゆるこれからだと令和4年度の当初予算の編成に基づきまして、当然それから令和4年度以降、どういうふうに豊能町として事業を進めていくかというところも検討した結果、3月に毎年、財政推計を示させていただいております。

今回もそのような形で財政推計、いわゆる豊能町でやるところのシミュレーション、これについては今後、学校の再編等々の工事費もございますので、そういった今後予定される大規模事業も含めて、シミュレーションを作っていきたいと考えております。

そのためには、来年度の予算編成というのがまた重要になってくるんですけども、先ほど委員がおっしゃったようなPDCA、こちらのほうもこの主要施策成果報告書で一つ一つ、ここにBとかAとか書いてあります。このような課題とかを検討した上で、事業について予算の査定に役立てた上で、来年度の予算の編成をしていきたいと考えております。

○委員長（寺脇直子君）

西岡副委員長。

○副委員長（西岡義克君）

やってほしいんですけども、今までどおりの形のことをやっておいたら駄目やと、監査委員が書いてある。同じようなことをやっておいたらね、まず駄目です。結局、財政調整基金が枯渇する。つまり、危機的な財政状況やという、そういう意識がまず住民さんのほうはないでしょう。職員がないんやから。我々もそれほどない。口では言うけどね。緊急事態やとか、危機的な状況やと言うけども、僕もこれをずっとあれしてきたけど、そういう危機感はまだあまり感じられへんのやね。もっと具体的な方法で、今までと違う方法で、皆が一体に

なれるような、情報を共有できるような方法を考えて、実行に移してほしいと。これは要望しておきます。

また入のときに質問します。

○委員長（寺脇直子君）

要望でよろしいですか。

○副委員長（西岡義克君）

はい。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

井川委員。

○委員（井川佳子君）

決算書の79ページ、成果報告書20ページの武庫川女子大学連携協定事業について28万円の支出がありますが、どのような研究で、どのような効果があったのでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

武庫川女子大学との連携協定事業の件でございますけども、昨年度の実績といたしましては、コロナ禍でございましたので、予定しておいた事業が全てできたというわけではなかったんですけども、10月に公園を活用して住みたい町を作るというお題で基調講演、公園活用セミナーということで講演を含めたセミナーを実施いたしております。

予定しておいた事業が全てできなかったということもございまして、協定の中では50万円という支出を予定しておいたんですけども、事業ができなかったということも踏まえまして、一部返還ということで返していただいたというところで、決算額が28万231円という形になっております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

それについては分かりました。

このページ全体の総合評価がCということで、小事業について統合や規模、内容、実施主体の見直しが必要と書いていらっしゃるんですけど、原課としてはそのようにお考えということなんですけど、どれとどれを統合していったらいいなとかいう案もお持ちなんですか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

この事業は地域活性化事業ということで、小事業としても5つぐらいあるんですけども、例えばですけども、シティプロモーションの事業の中で、トヨノノ応援会の事業ですとか、トヨノノレポーターという事業があるんですけども、もともとこれはトヨノノドリームという事業でやっておいた事業がトヨノノ応援会という形になったり、事業の中身につきましては、そういった形で再考をしていきながら、より良いものにしていかなければいけないというふうな形で思っております。そういう意味では、事業をしっかりと効果的に打っていけるような形で考えていくというような趣旨でございます。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

ではすみません、次にいかせていただきます。決算書が81ページで成果報告書が33ページ、新型コロナウイルスのナンバー2の小事業名のところなんですけど、申請団体に交付されたんでしょうか、任意団

体というふうに書いてありますけど、申請があつての交付だったのか、そこをお聞きします。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

この事業につきましては、NPO法人に対しまして、地域で活躍するNPO法人がコロナ禍におきましても新たな生活様式に沿った地域のつながりでありますとか、コミュニティを創出する事業を行う場合に交付をした補助金の事業でございます。

申請がありましたのはNPO法人愛花会さんと、NPO法人ヴィエントとよのさん、この2団体から申請がございましたので、この2団体に30万円ずつ、計60万円という形になりますけど、30万円ずつ交付した事業でございます。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

一応広報はしましたけれども、手を挙げてきたのが2団体だったという理解でよろしいですか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

そのとおりでございます。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

では次にいきます。決算書83ページ、成果報告書24ページで小事業名が町外在住学生支援事業というのがあります。

帰省されない学生さんのために、ふるさ

との産物を送ったという、何か心温まる事業だったなと思うんですけども、一人当たり何キロ送られて、反応はどうだったのか把握されていますか。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

学生支援ふるさと便につきましては、令和2年7月1日から12月28日までを受付期間としまして、計75名の学生に対しましてふるさと便を送付いたしました。

このふるさと便の中身につきましては、お米ですとかお味噌ですとか、あとはシイタケ時雨とか、そういった加工品がメインとなるんですけども、お願いをしたのが志野の里をお願いをいたしまして、協議会のほうをお願いをしたわけなんですけども、受付をした時期によって若干中身が異なったのもありましたけども、一人当たり約3,000円程度の品物を送付いたしました。北は本当に北海道から南は沖縄までというところで、全国各地に送らせてもらったんですけども、ちょっとまだその感想と言いますか、反応というところにつきましてはまだ把握のほうはできておりません。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

その反応があれば、また地域の方も逆に喜んでもらえたのかなというのもあったかもしれない。でも受け取った本人たちはきっと喜んでいるだろうと想像がつくのであれなんですけど、では次にいきます。

決算書83ページで、成果報告書が39ページ、特別定額給付事業であります。給付率が99.9%ってすばらしい数字だと思っております。これは対象総額引くことの

給付額は130万円と、未給付は8世帯の13人になるということでよろしいんですか。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

未給付の中に辞退されている方がいらっしゃいますので、実際には辞退された方が5人、50万円分。未申請が80万円ということになります。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

常時のお勤めをこなしながら、国からやってくると言ったら失礼ですけど、皆さんが待ち望んでいるので大変だとは思いますが、それをされる職員の皆様って本当に大変だったろうなと思います。

先ほど人件費で聞いたら、どう対応されたかということ、任用職員の方がされたというのもあるんですけど、どれぐらいの人数をお雇いになって、どれぐらいでこれが達成できたのか、もうすごい数字だなと思って感心しているんですけど、さぞや大変だったろうと思います。もし把握されていたらで結構です。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

会計年度任用職員を臨時的に雇ったんですけど、最初のやり始めが一番多いということで、初めの5月に入って、5月の後半ぐらいからというかたちで、6月は3人体制とか、7月は2人体制とか、ちょっとずつ人を減らして採用しているというふうな形でうまくやりとりはさせてもらいまして、やっぱりやり始めが繁忙になりますので、そこは集中的にさせてもらいました

し、あとは会計年度任用職員だけではなくて、町のほかの職員にも協力いただきまして、町全体を上げて取りかかったということでございます。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

同じ83ページのところです。説明書ちょっとそのままいきますけど、今の特別定額給付金のところに業務委託料1,200万円がありますね。8,000世帯と考えて1件当たり150円かなというのを勝手に計算しているんですけども、これは一体どこに何をどんな業務をお願いしたのかということ。

その下のさっきの町外への学生さんのほう。こっちの業務委託料は入っていないので、全然関係なく志野の里が受けてくださったのか、この2点の違いをちょっと教えてください。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

特別定額給付金事業における業務委託料が1,200万円ほどかかったという分に関しましては、給付金を支給するに当たりまして、住民基本台帳と連動させて、住基情報を使ってシステムを組むんですが、それを受付から申請書の口座情報から支給に当たって銀行にデータを送るリスト、そういったものまで作成して、あとはどこまで支給したかというのが後で分かるような、そういったものを含めたシステムですので、その構築費ということでこれだけの予算を使わせていただきました。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

田中まちづくり創造課長。

○まちづくり創造課長（田中久志君）

まちづくり創造課の田中です。

町外在住学生支援事業のほうにつきましては、この消耗品、23万1,960円が志野の里のほうで商品を購入した金額となっております。通信運搬費のほうは8万1,390円ということなんですけども、こちらのほうが業務委託ではなくて、職員のほうがゆうパックで送らせていただいたというところになっております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

分かりました。学生さんのほうは志野の里から買って、職員たちの手で梱包して送って、委託料は入っていない。御苦労さまでした。

もう一つのその上の特別定額給付金のほうの業務委託料なんですけど、ということはこれはどこに支払った。そこの質問をお願いします。そういうふうなのが普通の金額なのかどうか。そこら辺も意外と結構高いなと思いましたので、説明をお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

失礼しました。支払った先というのは、ベンダーになりますので、住基情報を扱っているんですが、富士通さんになります。自治体クラウドのほうを基幹系の分をやっております、うちと千早赤阪村と河南町ですね、その当時。今は島本町も入っていますけども、その3町村が同じような基幹系のシステムを使っていますので、そこで特別定額給付金用のシステムをベンダーに組

んでもらって、今までそういうのがなかったのを組んでもらって、言ったらシステムをまず構築してもらって、あとサーバーとかも使いますのでその利用ですね。利用料も含めた形でこれだけの経費がかかったと。一時的にこの短期間にやってもらわなあかんということで、なかなかSEさんとかには大変負担をかけていると思うんですけども、それは自治体クラウドをやっているほかの町村も同じだけの負担がかかっています。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。不勉強ですみません。

ということは、その経費も国から出ている。その確認だけお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

総務課、萩原です。

これは事務経費として、これだけではなくて、郵送代であるとか、振り込みに関する手数料とか、そういったものも含めて、本来は国の事業ですので、これは全て交付金の申請をして、全て賄っております。

あまりにも高いかどうかというのは、一応国のほうからある程度これぐらいの人口であればこれぐらいの事務費がかかるというところの目安みたいなものがあるので、その中ではできているということです。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

よろしいですか。ほかに質疑はございますか。

井川委員。

○委員（井川佳子君）

決算書85ページ、成果報告書41ペー

ジで、住民情報化推進事業なんですけど、基幹系システムのネットワーク機器の買い替えを検討されないんですか。

○委員長（寺脇直子君）

基幹系システムの機器の導入が平成19年になっているからということですね。

平成19年にこの基幹系システムのネットワーク機器を購入しているということで、それを買い替えないのでしょうかというような質問です。

萩原総務課長。

○総務課長（萩原哲也君）

基幹系になりますので、自治体クラウドのほうで令和元年10月からということですので。

○委員長（寺脇直子君）

課題整理のところに書いているんです。

○総務課長（萩原哲也君）

失礼しました。自治体クラウドではなくてネットワーク回線が大分古いということですので、これはほかにもいろいろ悪いところともありますので、予定を組んで、近いうちに進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

そしたら私のほうから質問させてもらいます。

決算書の73ページで説明資料の52ページで、ちょっと1点確認したいんですけども、令和元年度の決算額が約2億800万円になっていまして、令和2年度の決算額が3,246万円になっているんですけども、このあたり詳しく説明をお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

山内行財政課長。

○行財政課長（山内 拓君）

行財政課、山内です。

決算書の説明のときにもちょっと説明をさせていただきましたが、本来であれば前年度の基金の運用収入分を積み立てておかなければいけないところが漏れておまして、今回この財政調整基金のみの積立金だけが上がっている状態になっております。

ほかの部分につきましては、今議会の一般会計補正予算に計上させていただいておりますので、議会の議決をいただきまして、速やかに各基金への積立てを行う予定をしております。

以上になります。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

ないようですので、ここで暫時休憩します。

再開は2時とします。

次に90ページの徴税費から98ページの人権推進費までの説明を願います。

それでは、2時から再開いたします。

（午後1時51分 休憩）

（午後2時00分 再開）

○委員長（寺脇直子君）

それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

90ページの徴税費から98ページの人権推進費までを御説明願います。

泊税務課長。

○税務課長（泊 進君）

税務課、泊です。

税務課のほうで所管しておりますのは、決算書90ページから93ページの徴税費に関する項目でございます。

それでは、令和2年度に実施しました主な事業について御説明いたします。

決算書90から91ページ、事業評価シート107ページ、総務費、徴税費、税務総務費の大事業・税務管理事業は、町税の

賦課徴収全般に要した経費で、旅費、通録代のほかに税務に関して広域連携で取り組む課税情報の取得や租税教育のための関係団体への負担金に要した経費が主なものとなります。

負担金等については昨年度と同様で、ほぼ同額程度の実績となっております。

続きまして、決算書の同じく90から91ページ、事業評価シート108ページの総務費、徴税費、賦課徴収費の大事業・町税課税事業は各町税の課税事務に要した経費でございます。

成果報告書2・構成事務事業として、2つの小事業を掲載しておりますが、一つ目の町税課税事業としましては、納税通知書の作成やその他課税等に関する経費でございますが、事業全体で大きな割合となるのが償還金に関するものです。過年度の確定申告や過納や誤納等で生じた還付金の財源となるものです。過年度の確定申告によるものが多いため、主要施策報告書にあるように、個人町府民税に関する償還金が多く占めています。

また2つ目の豊能町空中写真撮影事業についてですが、令和2年度の単年度利用として、デジタル空中写真撮影に関する業務を委託しております。本業務は固定資産税の課税客体である土地及び家屋の現況を把握するために基礎資料を作成し、固定資産評価業務の効率化を図るとともに、適切かつ公平な課税の推進に資するために3年ぶりに実施したものです。

なお、業務委託料に関してですが、決算書と成果報告書で約100万円の差がありますが、それは本業務とは別に固定資産税について3年に一度の評価替えの前年度に行う固定資産評価替標準地鑑定業務を行っており、この業務に関して生じた経費であります。

続きまして、決算書92から93ページ、成果報告書の109ページの大事業・町税収納徴収事業についてですが、これは町税の収納及び徴収の事務に要した経費です。

その主なものは、封筒の印刷代や口座振替、コンビニエンスストアにおける収納の手数料です。特にコンビニエンスストアにつきましては、令和2年度より新しく導入したのですが、住民の皆さんの利便性の向上が図れるとともに、徴収率の向上に期待できるものと考えています。

税務課の主な事業は以上のとおりです。よろしく願いいたします。

○委員長（寺脇直子君）

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

住民人権課、石井です。

住民人権課で所管しております戸籍事務等窓口業務事業について御説明いたします。決算書93ページ、成果報告書111ページを御覧ください。

こちらの事業は、戸籍や住民基本台帳等の窓口業務を円滑に進めるための事業でございます。

支出の主なもの、昨年、ちょっと大きなシステム改修等がございましたので御説明いたします。

まずは戸籍の副本データ連携オンライン化対応事業、こちらはサーバに持っている戸籍のデータを国のサーバーに保管するためにオンライン化に対応したシステム改修の費用でございます。

次に、デジタル手続法改正に伴うシステム改修事業につきましては、国外転出者が今後、マイナンバーカードを利用できるように国が進めておりまして、そのまず第一段階のシステム改修となっております。

あと戸籍法の一部を改正する法律に係る戸籍情報システムの業務委託料、こちらも

今後、マイナンバーとひもづけしまして、全国どこの自治体でも戸籍が取れるように、国が構築しておりますもので、そのためのシステム改修のまず第一段階のシステム改修になっております。

またもう一つ主なものとしましては、旅券発給事務に係る窓口の対応業務でございます。こちらは池田市役所に委託しております一般旅券の申請受理に関する事務委託経費となっております。

戸籍事務窓口等の業務事業はこちらの説明で以上です。

事業評価シート116ページ、決算書101ページを御覧ください。ふれあい文化センター管理事業でございます。

本事業は、ふれあい文化センターの施設管理を主たる目的とするものでございます。昨年よりの支出増がございしますが、こちらは冬季に水道管が凍結し破損した箇所を修繕したことによる支出の増となっております。

説明は以上です。

○委員長（寺脇直子君）

それでは、これより質疑を行います。

井川委員。

○委員（井川佳子君）

決算書93ページ、成果報告書109ページのコンビニ収納導入事業についてお伺いします。

コンビニ導入を令和2年度から始められたということで、高い収納率を達成できたとおっしゃっています。比較が分からないので、多分すごい数字だろうとは思いますが、どれくらい伸びたとか把握されているのでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

泊税務課長。

○税務課長（泊 進君）

税務課の泊です。

コンビニの収納についてですけども、コンビニ以外に、口座振替等とかも活用しながら収納を進めているところなんですけども、一応口座振替も参考にとということで、口座振替は昨年度で全体のうちの大体40%が口座振替で収納できてます。ただそれに比べるとコンビニ収納なんですけども、まだ初年度ということもありまして、10%程度なんですけど、そういった形での徴収の振り分け状況にはなってます。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

ひょっとしたらコンビニ収納がなかったら10%取りこぼしていたところが、コンビニ収納があったから、いつでも24時間収納できてこの数字、99.3%になったのかなというわけではない、というわけですか。

○委員長（寺脇直子君）

泊税務課長。

○税務課長（泊 進君）

税務課、泊です。

この10%ですけども、やはりおっしゃるように24時間いつでも収納できるという利便性というのは非常に高いと思いますので、今後、口座振替、現在も口座振替が主流になっておりますので振替率は少ないですけども、今後こちらのほうとか、今年度の話になってあれですけど、ペイペイとかそういったいろんなアプリとかを使った収納もありますので、そういったところで切り替わっていくとか、また収納率が伸びてくるんじゃないかなというふうには考えています。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

今の口座振替とコンビニ収納の事業で、

手数料的な部分のことを聞きたいんです。

このコンビニ収納導入事業の令和2年度決算の金額68万5,000円というのは、この代行手数料、要は住民さんがコンビニでお支払いをしたら、それに対してじゃあ100円か200円か知らんけど、手数料を1回あたりコンビニに払っているという、そういう金額の総計なんですね。

○委員長（寺脇直子君）

泊税務課長。

○税務課長（泊 進君）

税務課、泊です。

コンビニの利用、手数料に関してですけども、基本料金と実績料金というのがございます。基本料金としましては、1万5,000円の10%で1万6,500円が基本料金でかかってきます。あとそれ以外に実績ということで、振替の1件当たりに対して、1件57円。その合算で毎月支払いのほうをしていく、手数料はそれがかかってくるようになります。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

コンビニ収納の場合は手数料を役場がコンビニに対して払うというふうなことだと思いますけども、それに対して、口座振替という場合は、要は口座から口座へお金を個人の口座から役場の口座へ払うというふうな流れやから、その手数料は逆に住民さんが払っている。どうなんですかね、違うのかな。

○委員長（寺脇直子君）

泊税務課長。

○税務課長（泊 進君）

税務課、泊です。

今の手数料に関しましては、まず1件当たり役場から金融機関なり収納代理機関に

払う分でございます。

口座振替に関しましては、郵便局と郵便局以外の金融機関で利用があるんですけども、郵便局は1件当たり10円、郵便局以外の金融機関に関しては1件当たり5円という形で手数料を役場から金融機関に払っているということになります。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

そしたら、口座振替業務更新事業、更新事業という名前やからあれかも分からんけども、決算が4,000円となっていますけども、ここには手数料という金額は計上されていないんですね。コンビニ収納のほうは手数料そのものの金額が何やかんやで68万5,000円やけども、口座振替に必要な手数料というのはここには掲載されずに、またどこか別のところに計上されていますよということですか。

○委員長（寺脇直子君）

泊税務課長。

○税務課長（泊 進君）

税務課、泊です。

この手数料に関しては、成果報告書の109ページのところ、小事業名・町税収納徴収事業の中に入ってくるものです。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

私はぱっと見て、この2項目めと3項目めを見ると、手数料がほとんどかからへんから口座振替のほうは役場としてはお安くつくのかなと思ったら、そうでもないんですね。結局、口座振替とコンビニ収納というのはそんなに変わらないんですか、役場が負担する手数料というのは。

○委員長（寺脇直子君）

泊税務課長。

○税務課長（泊 進君）

税務課、泊です。

手数料に関しましては、1件当たり、コンビニでしたら月額の基本料金と1件57円ということがございます。口座振替は郵便局で10円、それ以外が5円ということなので、圧倒的に口座振替のほうが手数料率としては少なくなると思います。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

成果報告書の111ページ、それから決算書が93ページになります。先ほどの説明の中で、小事業名・戸籍副本データ連携オンライン化対応事業などで説明がございましたが、この豊能町が持っている戸籍の副本データを国のサーバーへ保管するという、そのようなお話を聞きましたけども、結局は豊能町が持っている戸籍のデータを全国どこでも取れるような、そういうふうな形にするために国に預けるという、そういうふうな意味合いのことだったんですかね。もう一度確認をお願いいたします。

○委員長（寺脇直子君）

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

住民人権課、石井です。

もともとは東日本大震災の際に、市役所とか庁舎が津波に飲み込まれた際に、戸籍のサーバーというのはもともと自分のところの庁舎に置いておくという決まりでシステム化しておるんですが、その機械が流された市役所等々がございまして、戸籍のデータが消失した市町村が幾つか出たんです。そういうケースに陥りますと、結局個人の

身分を証明するものというのがなくなってしまふので、西日本のデータは東日本の地震の少ないサーバーに、東日本のデータは西日本のサーバーに毎日連携するという仕組みづくりが行われたときの、こちらの改修についてはそのシステムなんですけど、豊能町は割とデータが少なかったんで、USBを使ってやりとりしていたんです。国の機械に豊能町のシステムからデータを落として、そこから流すという作業を毎日しておったんですが、それをオンライン化させてもらうための対応事業です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

そういうことですね。要はデータが失われたときのことを想定して、副本を別のところに置いておくという、ただ単にはそういうことですね。私は国に預けるという話やったから、もしかしたら日本のどこでも戸籍を取れるような、そういうふうな流れをこれでやるのかなと思ったらそうじゃないんですね。

○委員長（寺脇直子君）

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

住民人権課、石井です。

すみません。同じく、戸籍法の一部を改正する法律に係る戸籍情報システムの改修事業というのを別の項目で上げさせていただいてまして、こちらのほうが、行く行くはマイナンバーとひもづけという形を使って、日本全国でデータを活用できるようにしていきたいという、国のシステム変更のためのシステム改修の導入、まだまだ先なんですけども、令和5年とか6年とかになるんですが、そのための前段階のシステム改修の全国的な利用については、こちらの戸籍法の一部を改正する法律のシステム

改修のほうになってまいります。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

ということは、一応国のお金を使ってこういうふうなシステム改修を進めているということなので、豊能町としてもいずれはそんなふうな、どこでも取れるようになるのかな。そんなふうにしていく方向でいいんでしょうかね。

○委員長（寺脇直子君）

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

住民人権課、石井です。

そのような国の動きになっております。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

成果表の113ページ、決算書の99ページなんですけど、これはいつものとおりの質問なんですけれども、人権啓発推進事業、人権尊重の町ということで豊能町は進めておりますが、人権のこの予算は全部で3,400万円ですよね。そういうふうな大きな額が毎回かかっております。その中で、人権相談というのもここに入っております、今回は相談件数が18件ということになっております。相談事業として147万4,520円という委託料ですね。これが全部この件数に関わって支払われているのかどうか、その点を確認いたします。

○委員長（寺脇直子君）

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

住民人権課、石井です。

人権相談の事業に係る費用です。業務委託料として支払わせていただいております。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

これは人数は何人で携わっておられるんですか。人権相談の人員。

○委員長（寺脇直子君）

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

委託は団体に委託しているんですが、相談員は2人で行っていただいております。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

18件という件数ですけれども、これが人数は何人なのかなと。前も複数で重複している人がおられて、人数で言えばこの半分以下ぐらいに、前は報告されていますけれども、その点、お分かりになっていたら教えてください。

○委員長（寺脇直子君）

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

申し訳ございません。今手元に資料がございません。後ほど御回答いたします。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

人権に関わることは、人の個人情報もありますし、こういう人権問題はないほうがいいんですけども、しかし深刻な人権の相談であれば、やはり法的によく熟知した方が携わるということが一番問題解決というか、説得力のある話ができるということですので、これはやはり民間の相談員ではなく、人権の委員さんがいますよね、5名いらっしゃいますよね、豊能町には。その方は毎月されているのかな。けどそんなに頻繁に、この18件の方がワーと行くような、そんな事態ではなさそうです、見たらね。ですから、十分携わっていける人数、対応できる人数の方が人権相談事業の

ほうに行かされているんじゃないかと思うんですけども、私はもう人権擁護委員さんのほうに回すべきだと思うんですけど、やはり国が定めておりますので、それと同和問題に関しては、もう国がやめています。ただ大阪府がまだ続けていますので、それが引きずってこの予算の中にも大阪府人権推進協議会とか、いろいろたくさんあるんですけど、それで負担金を徴収されているというようなことがここに計上されています。そういう問題でありますので、豊能町もこの点ではしっかりと同和事業というのは国と同じようにやめて、はっきりさせたらどうかというふうには思っておりますが、相談のほうはどうですか。そういうお考えはありませんか。

○委員長（寺脇直子君）

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

議員のおっしゃることももっともかなと思います。

人権擁護委員さんは国の委嘱を受けておられまして、幅広く人権課題に取り組んでいただいているところですが、やはりこういう窓口を幾つか置きまして、相談員さんが聞かれた問題を、例えば法律相談の案内をしてみたりとか、仕分と言ったら変ですけど、そういう手助けもしていただいておりますので、引き続き窓口はあったほうがいいのかと、私個人では思っておるんですが、大阪府の施策としまして、総合相談事業、人権相談以外のほかの事業も併せてまだ補助金を頂いている状態ですので、大阪府の方針が変わらない限りはちょっと続けていけたらなと思っております。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

大阪府が推進して、まだ補助金、これは

半分出しているのかな。2分の1、だからやっぱり豊能町もしないといけないのかもしれないんですけども、法律相談、行政相談、いろいろ窓口もあるわけですよね。だからそういうところでの相談もできるわけですので、今後はその点はしっかりと検討していただきたいと思います。これは大阪府が続ける限り続けられるのかもしれないけれども、これは人権問題というのは延々と続くのかもしれないけれども、しかしそれは同和の関係ではなく、もう一般的にどこにでも人権問題も出ているわけですから、その点、検討として申し述べておきたいと思います。よろしく願いいたします。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

高尾議員と同じところなんですけど、ちょっと教えていただきたいんですが、人権啓発事業の業務委託料177万4,520円、その下にまちづくり協会の補助金100万円、まちづくり協会のほうの補助金の中身はイベントですとか、標語の募集とか書いているんですが、この業務委託料はどこに何をお願いしているのか分からないので、説明をお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

住民人権課、石井です。

人権推進総務費の人権推進事業の業務委託料につきましては、177万4,520円執行しましたが、そのうち、成果報告のシートに載せています相談事業が147万4,520円、あとふれあいフォーラムと言いまして、男女共同参画の色合いの濃いものがあるんですが、そちらの業務委託料とし

まして、イベントを実施した業務委託料30万円という内訳になっております。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

それは全部人権まちづくり協会の補助金の中でやっていると思っていただけ、以前からこの形でしたっけ。お願いします。人権まちづくり協会も同じようなことをやってらっしゃる。

○委員長（寺脇直子君）

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

住民人権課、石井です。

すみません、ちょっと説明が足りませんでした。

人権まちづくり協会の補助金は出させていただいているんですが、そちらで大きなイベントとしましては、12月の人権週間に行う人権を考える集い。まちづくり協会にはほかにも委員さん向けに研修会や施設見学会などを実施されていまして、それは住民人権課で行っていますこのふれあいフォーラムとはまた別の事業でございます。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

人権、べつに否定するつもりはないけども、2つ必要ですか。町の成果として。

やっぱり私はどっちか一方に絞ったほうがいいような気がするんですが、似たようなということはちょっと語弊がありますけども、この2つ、フォーラムと集いとする意義的なところがもうひとつ分からないので、御説明いただけますか。どうしても必要だということ。

○委員長（寺脇直子君）

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

住民人権課、石井です。

人権を考える集いと言いますか、まちづくり協会の事業は、住民さんが参画して下さっている団体で実施してもらい、住民さん主体の事業という形になっています。住民人権課は事務局で携わらせてはいただいているんですが、住民さん主体で事業を進めていただいているという事業になっております。

ふれあいフォーラムにつきましては、男女共同参画の意味合いもございますので、人権と言えば人権、女性問題とかになってくるのかもしれませんが、そちらの意味合いもございますので、ちょっとまちづくり協会の事業としては少しなじまないところがあるのかなというのと、ふれあいフォーラムにつきましては、大阪府からの委託事業としまして、歳入のほうにも補助金を入れています。委託料を入れておりますので、それでほとんど、3分の2程度賄って事業を行っております。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

それだともうちょっときちっと町の中でこれはまちづくりのために必要なんですということをやってほしいです。ここの人権の中にあれもこれも人権ですという形の予算の立て方はちょっとぴんとこないですね。私が客観的に見て、だったらこれ一つにしたらいいじゃないかと、そのところは今後の予算の組み立て方ですね。そこを担当じゃなくて、町全体として、今言うと、これまちづくりのほうですとか説明をいただくと、もうひとつ分からなくなるし、単純に言ったらば、人権のことに対して2つ必要なのかという説明ももうひとつ分からないですね。住民主体だからいい、こっちは

人権協会が主体だからいいというふうにも聞こえちゃいますし、決してそうではないと思いますので、今のところをもうひとつきちっとここに2つ並べている理由、違いを説明していただけますか。

○委員長（寺脇直子君）

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

法律と言いますか、法律の違いというものもありますが、国なんかでいいますと男女共同参画の趣旨と人権の趣旨というのが違いますので、そこで実施主体を分けているんですが、来年度からまた事業の絡みで、ふれあいフォーラムはもう女性活躍等々で活用できたらなどは思っております。

○委員長（寺脇直子君）

よろしいですか。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

成果報告書の108ページをお願いいたします。決算書は91ページになります。

この成果報告書の108ページの課題整理というところら辺とか、あと改善の方向性というところについて質問させてもらいます。

この課題整理の中の課題内容というところで、高度化、複雑化する課税事務への対応ということが書かれてありまして、そして以前の方向性として、AIやRPAを活用することによる作業方法の見直し、そういったことを今後検討するというふうになっていますけども、課税処理と言いますか、課税事務と言いますか、これは結構手作業的なことが非常に多いんでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

泊税務課長。

○税務課長（泊 進君）

税務課、泊です。

e L T A Xとかの普及によって、大分電

子化されているところはあるんですけども、ただまだ紙ベースでやらなければいけないところが多々あります。

特に特別徴収とかの関係でいいますと、従業員の方が異動されたときとか、退職とか転勤とか、そういった形で異動されたときには、異動届出書というのをを出していただくことになるんですけども、こういったものは現状、今、紙ベースで処理していることがほとんどになります。

ですので、まだうちのほうでの取組というのはまだ全然進んではないんですけども、先進の都市とかを見ていますと、そういった紙ベースできた異動届に関して、例えば、スキャナーで内容を読み取って、ソフトとかそういうものを使って、人の手を使わずに処理するのを実証的にされているところもございますので、うちの規模とかにもよるかと思えますけども、今後そういったところが町にもなじんで、うまいこと効率化が図れば活用の見込みとかがあるのかなというふうには考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

私は思うんですけども、やっぱり国の所得税、あの申告は確かにパソコンでぱっぱとやって、自動であなたの税金はこれだけです、みたいなのははじき出してくれるという、非常にありがたいなと思ってるんですけども、要はそういう仕組みが豊能町にも、町税対応になるのかな、そういったものがもしあれば、結構そういった意味では職員さんの作業がある意味楽になるというふうなことも言えるんでしょうかね。

○委員長（寺脇直子君）

泊税務課長。

○税務課長（泊 進君）

税務課、泊です。

所得税の確定申告書とか、先日もありましたけど、公的年金の支払報告書、こういったものをe L T A Xを使ってこちらのほうには届いているところは届いて、それはやっぱりそのままうちの基幹システムに移行ということはやはりちょっと難しいところがございまして、ワンクッションなり、中身を確認する作業とか、そういったところで人的な作業がどうしても必要になってきますので、それが少しでも少なくなるように今後制度とかを、そういったe L T A Xのシステム自体の精度とか、基幹システムの精度とかを上げて、少し上がることを期待しながら、業務が効率化できればいいのかなというふうには考えています。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

特にこの町税関係のお仕事と申しますのは、多分この春先に一気に仕事量がいっぱい増えて、確か5月上旬か何かに来ましたっけね、町税関係の納付書というのは。だから多分この3月か4月かその頃に一齐に忙しくなって、負荷が集中する、仕事量が集中するような感じかなと思ったりもするので、そういった意味では、本当にしっかりと業務効率、うまいこと人的な作業を極力下げて、オートメーションというか、そういったことでできるような方向にしたほうがミスも少なくなるだろうし、皆さんのお仕事も楽と言ったらおかしいけど、はかどりやすくなると思うので、R P A書いてありますけど、しっかりとできる範囲から進めてもらえたらと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

ふれあい文化センターまで行ってよかったですね。

○委員長（寺脇直子君）

はい、ふれあい文化センターまでいっています。

○委員（秋元美智子君）

ふれあい文化センターのことなんですけど、約1,400万円を使って運営していますが、これはこの施設を考えたときに、避難所として使うことは無理ですか。地域的にあの地域から中央公民館へ行くのもかなりきついものがあるし、あの建物そのものはちゃんと整備されたと思いますし、そういう発想的なところは無理ですか。

○委員長（寺脇直子君）

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

ふれあい文化センターにつきましては、今現在、あれは昭和57年以前に建った建物なんですけれども、耐震改修がまだできていないというところで避難所指定を現在していないところになっております。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

耐震的に無理があるということは、あの建物そのまま維持するかどうかは今後考える必要がありますわね。そういう角度の質問をしたくて聞きました。

○委員長（寺脇直子君）

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

そういった観点も含めまして、公共施設等検討委員会の中で、そういったところも含めまして議論していきたいと考えております。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

私の意見で申し訳ないんですけど、さっき説明がありましたね、公共施設の再編計画、3月に出てまた1年かけてどうこうと。やっぱりその間、こういう大きなお金が動くわけです。ですからやっぱり町としてきちっと自分たちの中でどうするかという方向で考えていただきたいと思いますので、これは私の意見ですので、よろしくお願ひします。

○委員長（寺脇直子君）

川村副町長。

○副町長（川村哲也君）

副町長の川村です。

昨日も御答弁申し上げさせていただきましたけれども、公共施設再編は2か年で検討していくということでございます。職員、課長級、課長補佐級のPTも作りまして、その中でも考えていくということでございますので、そういう点も含めまして、今後、協議をさせていただきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

同じく成果表111ページです。決算書では93ページなんですけれども、ここにデジタル手続などいろいろデジタル、戸籍のことが手続することで載っておりますけれども、右上の表では戸籍謄本のデータとか、そういう3つ項目があって、これが業務委託されております。これが3件あります。これは毎年かかる費用ということでよろしいでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

住民人権課、石井です。

成果報告のシートに載せていますオンライン化とかの業務委託、システム改修の分につきましては去年度のみで完結しております。

ただ今後、また法改正と言いますか、構築していくためにはシステム改修をあと2年ほど何度か入ることがあるというふうに予想しております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

国がするものですから、システム改修のときは国から費用が出るのだと思います。

しかし、このデジタル化というのはいろいろな危険なこともあるということが言われております。監視法案とも言われているんですけども、豊能町の個人情報保護条例、これが本当に守られていくのか、無視されていくのか、その点はどうなるのかなというふうに思うんですけども、いろいろ調べてみますと、行政機関が保有する個人情報を国、政府が一元管理するということなんです、デジタル化にするということは。ですからプライバシーや個人情報の保護強化のための規定がないというふうに言われています。ですからこれは危険なことなんだなというふうに思うんですけども、これは国がシステム化するという事ですから、町としては断られないという話なんだと思うんですけど、これには私は反対したいと思っておりますが、この点、マイナンバーにマイナポイントがついて、とにかく情報が国へ全部入るようにシステム化されるものなんですよ、マイナンバーというのは。これから健康保険やら、運転免許やら、医療情報、交通事故、違反などの情報もひもづけられて全部そういうことがどこかに流れるということもあるということ

も言われておりますので、この点ちょっと危険なデジタル化やなと思っております。

その点について、これはいっぱい載っていますので、これは結果ですけれども、今後のことについてはやはりそこは慎重にやらなければ、個人情報が出てしまうということも今までありましたので、その点、こちらのほうの管理は大事なことだと思しますので、そこは十分注視していただきたいと思います、これは要望でしかありませんので、よろしくお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

ないようですので、暫時休憩いたします。

次は、102ページの民生費、社会福祉費から124ページの国民年金費までの御説明を願います。

再開は15時とします。

（午後2時48分 休憩）

（午後3時00分 再開）

○委員長（寺脇直子君）

それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

先ほどの高尾委員の質問のお答えを。

石井住民人権課長。

○住民人権課長（石井慎子君）

住民人権課、石井です。

先ほどの議員の御質問にありました、生活人権相談の実人数ということですが、12名の方の相談をお聞きしました。

○委員長（寺脇直子君）

それでは、102ページ、民生費、社会福祉費から124ページ、国民年金費までを御説明願います。順次説明を求めます。

中谷福祉課長。

○福祉課長（中谷 匠君）

福祉課、中谷です。

それでは、決算書103ページ、主要施策成果報告書76ページ、地域福祉推進事

業でございます。

令和2年に第4次豊能町地域福祉計画等作成事業として、第4次地域福祉計画及び第2次自殺対策計画を作成しております。

また、福祉相談室開設事業として、令和2年4月に障害者やその家族、その他相談者の属性にかかわらず福祉全般の向上を図るため、福祉相談支援室を開設しております。

続きまして、主要施策成果報告書80ページ、決算書107ページを御覧ください。障害者福祉事務事業でございます。

こちらは第6期豊能町障害福祉計画策定事業として、第6期豊能町障害福祉計画及び第2期豊能町障害児福祉計画を策定しました。

続きまして、障害者自立支援給付審査支払等システム改修事業として、令和3年度報酬改定等に伴うシステム改修を行っております。

○委員長（寺脇直子君）

竹内こども育成課長。

○こども育成課長（竹内弘明君）

こども育成課の竹内です。

それでは、私からはこども育成課関連部分について御説明いたします。

決算書121ページ、事業評価主要施策成果報告書は202ページをお開きください。

款3・民生費、項2・児童福祉費、目2・児童福祉施設費の備考欄の3・吉川保育所運営事業で、委託料の業務委託料1,587万2,703円は、給食調理業務1,356万600円と令和2年度からの派遣会社から派遣を受けた保育士2名分の労働者保育士派遣業務230万6,103円です。

説明は以上です。よろしく御審議賜りますようお願いいたします。

○委員長（寺脇直子君）

これより質疑を行います。

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

参考までに教えていただきたいんですが、今の121ページのところの12の業務委託料1,587万2,000円のうちの流用部分というのは人件費からですよ。これはなぜ最初にここに上げてこなかったんですか。要するに報酬のほうから流用するような形になっているのか、途中から方針が変わっていませんか。確か。変わったのかな。ちょっとその説明をお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

竹内こども育成課長。

○こども育成課長（竹内弘明君）

こども育成課の竹内です。

年度当初におきましては、会計年度任用職員さんなりで対応しようと通常どおり予算を上げておりましたが、そういう方々がなかなか見つからず、保育所で保育士が不足する状態が続きましたので、派遣会社から派遣をしていただくことを決定しまして、この議員がおっしゃいました人件費のほうからその費用につきまして流用したということになります。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

町も大変だと思います。人を確保するのは、このままでいくと次年度もこの形になりますか。一遍、会計年度任用職員を期待していて、いや実はそうならなかったという形になるのか。もう最初から諦めて取り組もうとしているのか、ちょっとそこの今後の方針を教えてください。

○委員長（寺脇直子君）

竹内こども育成課長。

○こども育成課長（竹内弘明君）

こども育成課の竹内です。

来年度もそのように考えております。令和3年度は、吉川保育所等で同じように派遣の方に来ていただいております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

よろしいですか。

井川委員。

○委員（井川佳子君）

今の保育士さんの派遣のことなんですけど、ごめんなさい、私が初めて知ったのが令和3年の予算委員会の中でその話を初めて聞きまして、もう保育士さんの成り手がいないので、そういうのをされるんだなと思って、まさか令和2年度のこの決算に上がってきているのがすごく不思議で質問しようかと思って項目を挙げていたところだったんですけど、ごめんなさい、別に全部を知らせるとは言いませんけど、お知らせいただかないままに、もう先に令和2年の決算でもう雇ってはったということなんですよ。

○委員長（寺脇直子君）

竹内こども育成課長。

○こども育成課長（竹内弘明君）

こども育成課の竹内です。

令和2年度から、予算については流用という形で派遣の方に来ていただいております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

ここの吉川保育所さんでは何名の方に来ていただいているんですか。クラス担任を持っていただいているんですか。

○委員長（寺脇直子君）

竹内こども育成課長。

○こども育成課長（竹内弘明君）

こども育成課の竹内です。

吉川保育所では2人の方に来ていただいておりまして、お一人はクラス担任、お一人はクラスの補助ということで、副担任的な業務をしていただいております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

子どもたちにとっては、クラス担任の顔が毎日違うというのはとても混乱することです。だから一人クラスの担任を持っていらっしゃる先生は常時ずっと来ていただいているという理解でよろしいですね。

○委員長（寺脇直子君）

竹内こども育成課長。

○こども育成課長（竹内弘明君）

こども育成課の竹内です。

はい、おっしゃるとおり、担任に入っている先生は固定しております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

今回、流用のところに着目していますのでよろしく。

103ページのところの旅費です。真ん中にあります。費用弁償のところ、報酬より10万4,076円、報酬より9万8,414円流用されていますけども、これは何か急な、重大なことが背景にあるのでしょうか。全く思いもかけなかった流れがあったのかどうか、説明をお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

総務部、仙波です。

今、秋元議員がおっしゃったのが、決算書103ページ一番上の人件費事業の旅費へ9万8,414円流用という形になっているかと思うんですけども、会計年度任用職員の方の通勤手当が実は旅費として費用弁償という形で支給をするようにということが規定になっております。当初、どういった方を雇うかというところで、通勤手当の部分が流動的になりますので、こういった形でほかの項目にも旅費へ流用という形が若干出ているところでございます。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

この成果報告書の74ページ、それから決算書は103ページになります。これは成年後見事務事業ということに名前はなっております、この成果報告書の74ページの3、右上ですね、主な成果というところに成年後見制度利用支援事業1件となっていますけども、これは町長申立てというふうな、その案件が1件ということでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

中谷福祉課長。

○福祉課長（中谷 匠君）

福祉課、中谷です。

町長申立てによる成年後見人制度の利用支援事業の対象が1件ということでございます。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

この成年後見制度利用対象者の増加というふうなことが課題整理の項目の中に書かれておりますが、別に町長申立てをしなく

てもちゃんといけてるんだったらいいんですけども、きちっとこの成年後見制度が分からないとか、知らないとか、本当は利用したほうがいいけども、それができていないとか、そういうふうな方ももしかしたらいらっしやるんでしょうかね。どうなんでしょう。

○委員長（寺脇直子君）

中谷福祉課長。

○福祉課長（中谷 匠君）

福祉課、中谷です。

現在、そのような事例につきましては、ある程度相談等がございますので、町長申立てというのは、成年後見人になるような方がおられないとかいう方以外の相談等もある程度上がってきておりますので、その辺は何らかの相談をいただいているかと思っております。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

そうしましたらこの成年後見人制度、この制度そのものは結構周知できてきているのかなというふうに考えておったらいいんでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

中谷福祉課長。

○福祉課長（中谷 匠君）

福祉課、中谷です。

現在、周知につきましては、令和元年度ぐらいにパンフレットを作りまして、それによりましてある程度広報活動は行っておりますが、その辺の制度の説明等につきましては、また今後ホームページ等で行っていったらと考えております。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

井川委員。

○委員（井川佳子君）

決算書115ページで、成果報告書が66ページになると思います。小事業名が子ども医療費助成事業であります。

令和2年度の決算額が1,960万9,000円と設立当初はここには4,500万円という数字が並んでおりました。これは対象となるべき子どもの数が減ったのでこの数字になったという理解でよろしいですか。

○委員長（寺脇直子君）

岡本保険課長。

○保険課長（岡本めぐみ君）

保険課の岡本です。

子ども医療費助成に関してですが、子ども医療費の対象者数としては若干増えているという状況ですけれども、実際に受診をされた状況とか受診をした結果、この医療費の申請につながったということでは件数が減っておりまして、それで金額としては大分減っているという状況でございます。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

私が申し上げたのは、去年度とかじゃなくて、設立当初、ここが4,500万円という予算立てをされていたので、なので決算額がこの額なのでかなり減ったのかなと思っております。

令和元年の決算から令和2年の決算も減っているのは今、課長から説明いただいた、受診した数、要するにはっきり言って、コロナ禍で受診控えがあったのでその医療費助成のお金もそんなに伸びなかったんじゃないかなと見ているんですけど。

○委員長（寺脇直子君）

岡本保険課長。

○保険課長（岡本めぐみ君）

保険課、岡本です。

すみません、お子さんの数としての正確な数字を今持ち合わせていないんですけれ

ども、数として急激に減っているところと
いうのは間違いがないと思います。

○委員長（寺脇直子君）

質問はコロナ禍で減少しているのではな
いかという質問です。コロナ禍の影響につ
いての質問。

岡本保険課長。

○保険課長（岡本めぐみ君）

保険課、岡本です。

子ども医療助成だけでなく、老人医療と
か障害者医療も含めまして、全体に受診控
えが起きていると考えております。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

ここの成果報告書に数を示していただい
ていると思うんですけど、この数ですよ。ね。
医療費助成をされたのが。その中で、町
が1,139人、府が194人となっていま
すけど、ごめんなさい、この町区分、府区
分は何なのか御説明いただきたいです。

○委員長（寺脇直子君）

岡本保険課長。

○保険課長（岡本めぐみ君）

保険課、岡本です。

町と府というふうに分かれておりますの
は、府の助成が入っているかどうかという
ところなんですけれども、府の助成が入る
対象としては、未就学児が対象となってお
ります。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

よろしいですか。

それでは、秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

今の井川議員の質問と同じなんですけど、
これは確か所得制限がかかっていたと思う
んです。まずそれを確認させてください。

○委員長（寺脇直子君）

岡本保険課長。

○保険課長（岡本めぐみ君）

保険課の岡本です。

子ども医療費助成に関しては所得制限が
ございます。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

普通、18歳以下のお子さんを抱えてい
る親というのは当然若いですね。かなり
のお給料を稼いでいる方は少ないと思うし、
その所得制限にかかって、大きく言えば子
育て支援ですけど、それを受けられない方
というのは僅かだと思うんです、私。です
から、次期予算のときは、そういった所得
制限を設けてほしくないなど。これは要望
です。今、ここの場所と言わないと、来年
度反映できませんので、町長、ぜひ心に置
いてください。お願いいたします。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

成果報告書のページでいきますと65ペ
ージをお願いいたします。それから決算書
は115ページになります。

この成果報告書の65ページの事業名は
ひとり親家庭医療費助成事業という名目
になっておりまして、この65ページの右上
に親の方がかかった件数とか人数とか費用
とか、あと子どもさんの対象人数が何人で
件数が何件でとか総医療費が何ぼと書いて
いますけども、どちらかといいますと、見
た感じ、子どもさんの数は多いけども、親
御さんと比べたら件数は少ない。どっちか
というと、親御さんの件数が多くて、医療
費が多いということで、ある意味、親御さ
んが何か物すごく病気がちになっているの

かなというふうに思ったりも、この表から読み取れたかなと思うんですけども、親御さんのケアとか、そのあたりは何か考えておられるんですか。

○委員長（寺脇直子君）

岡本保険課長。

○保険課長（岡本めぐみ君）

保険課の岡本です。

この福祉医療の関係の中で、ひとり親家庭の医療だけが前年比増となっております、おっしゃるとおり、その中でも親御さんの受診が増えているのかなということが見受けられます。

個別の細かい分析とかはしているデータがないんですけども、その方に対しての何かケアというのは今のところは予定はないんですけども、今後の動向を見まして、何か必要があればということにはなるかと思えます。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

ちょっと私、この表を見て心配になったので、ちょっとまたこれからもしっかりと注視してあげていただければなと思います。よろしくお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

今回、トイレの改修をしていますね。たんぼの家ですとか、それと永寿荘、それと豊寿荘かな、していますね。このたんぼの家というのは18万5,900円、永寿荘、豊寿荘は27万円で、金額的に差があるものですから。

○委員長（寺脇直子君）

決算書の何ページでしょうか。

○委員（秋元美智子君）

まずたんぼの家のほうは105ページのところの14・工事請負費のところの18万5,900円、それと115ページのところの上の14・工事請負費のところのトイレ改修27万3,000円、それともう1件、その前のページの113ページの下の方の14番・工事請負費、永寿荘トイレ改修費28万3,800円。よろしいでしょうか。

この金額の違いというのは、構造の違いなのか。

それともう一点は、こういった場合は庁内でお互いに連絡し合って、どこが安いかというような話をされた上でこういうふうな取組をしているのかどうかお尋ねします。

○委員長（寺脇直子君）

小森健康増進課長。

○健康増進課長（小森 進君）

健康増進課の小森でございます。

今、御質問いただいた件は、それぞれの施設同じ事情かなと思います。昨年度のコロナの特例交付金にて各施設の水栓を自動に変更させていただきました。その金額の差異といいますのは、その水栓の個数によってそれぞれ違いまして、例えばうちの保健福祉センターも自動水栓にさせていただいています。当時、ひねる水道の蛇口やっただんですけども、それを自動化に替えましたので、各施設の水栓の数によってその金額が違うということになっています。

当時、確か補正をさせていただいたときも一括できないかという御意見も頂戴いただいたという経過を見ていますが、それぞれ早く設置するという目的もございましたので、それぞれがすぐに取りかかれる業者のほうにお願いをして実行したということになります。

以上でございます。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

今の関連の質問になります。成果報告書の77ページ、決算書105ページ、障害者自立支援事業という大項目の大事業名になっていますが、この成果報告書77ページの右、一番下、6番、改善の方向性ということで、たんぽぽの家の利用者が減少し、また施設の老朽化も年々進んでいるというふうに書いてございますが、確か、屋根と壁でしたっけ。あれは今年度、令和3年度予算で何か修繕するよみみたいな費用が入っていたかと思いますが、それでよかったですかね。

○委員長（寺脇直子君）

中谷福祉課長。

○福祉課長（中谷 匠君）

福祉課、中谷です。

令和3年度の予算、今年度で計上させていただいておりまして、実際に7月20日から8月20日までに屋根と外壁、天井、分電盤などの改修工事を行っております。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

ということは、この改善の方向性で書いてあるのは、あくまでもこれは令和2年度をしめた段階で施設の老朽化も年々進んでいるということであって、今現在でいくと、屋根も天井も壁もある意味きれいになっているよということだから、老朽化という部分においては、全部とは言えないかも分からないけれども、結構良くなったよというふうに解釈しておいたらいいんですね。

○委員長（寺脇直子君）

中谷福祉課長。

○福祉課長（中谷 匠君）

福祉課、中谷です。

委員がおっしゃるとおりでございます。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

決算書の113ページなんですけども、豊寿荘のところですよ。ここは今のトイレの話もありましたけれども、入浴サービスがなくなっておりますね。それで虚弱老人の方はいきいきふれあいホールですか、ポプラがやっておられるところで入浴サービスを受けられるようにするというふうに以前、答弁されていたんですけども、それは実際、現実に実施されているのかどうかお伺いします。

○委員長（寺脇直子君）

小森健康増進課長。

○健康増進課長（小森 進君）

健康増進課の小森でございます。

おっしゃったとおり、そのように実行しているんですけども、実際問題は件数は上がってきていないという状況でございます。

以上でございます。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

そうですか。じゃあ家庭で入っておられるというようなことは把握されているんですか。

○委員長（寺脇直子君）

小森健康増進課長。

○健康増進課長（小森 進君）

健康増進課の小森でございます。

具体的には、それぞれの方を追っているわけじゃないので、ちょっと分からないところもあるんですけども、もしそういうお話があるとすれば、私どものほうに相談として入ってくるかなと思われまます。

今のところは、私は就任して2年目になっておりますけれども、その間ではお聞きしておりません。

以上でございます。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

今はないということは、問題がないということに捉えたらいいのかなと思いますが、そういう事態があれば、ぜひ相談に乗って対応していただければと思います。

次にもう1点いきますので、すみません。

成果報告書の203ページ、123ページが決算書です。

ここに留守家庭児童育成室管理事業がございます。これは東の育成室と光風台、東ときわ台育成室の、この3つを上げて210万7,000円が上がっております。これは人数も書いてあるんですけども、これは先のことなので申し訳ないんですけども、引き続き、小中一貫教育が後にも挙げられておりますけれども、育成室は両方で設置されるということでよろしいのでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

竹内こども育成課長。

○こども育成課長（竹内弘明君）

こども育成課の竹内です。

育成室につきましては、これからもその運営はしていきます。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

部屋もきちっと設けておられるのか。東で言えば、空き教室があればそこに、人数で言えば広さも要ると思うんですけども、そういうことも踏まえた上で設置されるということでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

入江こども未来部理事。

○こども未来理事（入江太志君）

こども未来部、入江です。

東地区の育成室はどこに設けるのかという御質問だと思うんですけど、今、東地区の育成室は基本的には、なるべく既存校舎を活用するというので、今、各部屋割を検討しておるんですけど、育成室までは校舎の中にはなかなか収まり切れないのかなと思っています。なので、校舎の外側に、まだどこの場所にとすることは今現在検討しておりますけど、設けていきたいということで今考えております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

しっかりと取り組んでいただきたいと思っています。働くお母さんたちが安心して働けるという体制をぜひともよろしく願いいたします。

○委員長（寺脇直子君）

要望でよろしいですか。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

同じく成果報告書203ページのこの留守家庭児童育成室管理事業の金額的な件でお伺いしますが、令和元年と比べて令和2年が約60万円ほどアップしているように見受けられますが、これは預かっている児童数が増えたというふうなことに起因するのでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

竹内こども育成課長。

○こども育成課長（竹内弘明君）

こども育成課の竹内です。

おっしゃったとおり、約60万円増えておるんですが、内容的には消耗品費が約50万円増えております。これはコロナ感染

症対策でマスク、消毒液等の衛生関係の消耗品を購入できましたので、その分で増えています。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

そしたら預かっている子どもの数が大きく変わったというわけではないということではないんですね。

○委員長（寺脇直子君）

竹内こども育成課長。

○こども育成課長（竹内弘明君）

こども育成課の竹内です。

はい、子どもの数が増えたからとかではありません。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

成果報告書の95ページをお願いいたします。決算書113ページ、小事業名・永寿荘管理事業ということで、令和2年度の決算の額が571万9,000円で、令和元年と比べたら2.何倍の金額になっておりますが、このあたり、大きく変わっている点の要因というのはどういった内容でしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

小森健康増進課長。

○健康増進課長（小森 進君）

健康増進課の小森でございます。

ただ今の御質問についてなんですけれども、令和元年度にトイレの改修をさせていただきました。工事費として約330万円計上させていただいております。

実際の問題、令和元年度の決算が970万円ほどで、令和2年度につきましては6

00万円ほどで370万円の減と、大きな要因はそれだと思っております。

以上でございます。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

同じく、成果報告書の96ページ、今度は豊寿荘管理事業の名前になっておりますが、こちらに関しても、令和元年と令和2年の決算額で約200万円ぐらいのアップがございましたけども、このあたりの要因はどんな内容でしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

小森健康増進課長。

○健康増進課長（小森 進君）

健康増進課の小森でございます。

決算書の113ページをお開き願いたいと思います。ここで豊寿荘の管理事業として、先ほどおっしゃっていただいたとおり、550万円ほどになってございます。実は、令和元年度につきましては、ここの額が3,600万円ほど決算させていただいております。これにつきましても、先ほどと類似するようなことなんですけれども、豊寿荘につきましては、令和元年度に冷暖房の工事をさせていただきました。そのことによります影響額で下がっているのと、冷暖房の工事をさせていただいたことによる保守事業について若干額が下がっているとか、昨年度、閉館の時期も若干ございましたので、光熱水費が落ちているとか、様々な問題がございましたが、大きな問題はその点になるかなと思っております。

以上でございます。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

永寿荘と豊寿荘のことです。ですから113ページなんですけども、この説明書の95ページを見ると、157日稼働して、開所して、1日当たり8.8人ですね。この人数の中でこの維持費というのはやっぱりちょっとかけ過ぎだと思うんです。

ですから今後、このあたりのことについては例えば利用料を取るとか、何かしらの方向を考えているのかどうかお尋ねします。

○委員長（寺脇直子君）

小森健康増進課長。

○健康増進課長（小森 進君）

健康増進課の小森でございます。

若干説明をさせていただきたいなと思いますのは、先ほどちょっと僕が触れましたとおり、去年はやっぱりコロナの影響もありましたので、そのないときの比較もちょっとさせていただきたいなと思います。私どもの成果報告書の95ページにありました、先ほど委員のほうからおっしゃっていただきました1日当たり8.8人ということですが、令和元年度につきましては17.1人、平成30年におきましては19人で行いました。

続きまして、豊寿荘のほうなんですけど、これは成果報告書の96ページになります。そこに記載のとおり、前年度につきましては27.3人、令和元年度については41.8人、平成30年度については58人と、こういう形になってございます。

昨年度については、先ほども申し上げましたコロナの影響が大分あったのかなと思います。

しかしながら、午前中にも話題になっていました施設再編の問題も出てきております。今のPTの中でもそういう議論もされているということを聞いておりますので、それについてはいろんな条件を見ながら検討していきたいなというふうに思っております。

ます。

以上でございます。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

使用料を取る、利用料を取るかどうかということは、来年3月はちょっと無理だから、その次の1年間のときに出てくると期待していいですか。

○委員長（寺脇直子君）

小森健康増進課長。

○健康増進課長（小森 進君）

健康増進課の小森でございます。

ちょっと説明が足りませんでした。申し訳ございません。

議論につきましては、施設の在り方についてを議論させていただいております。今の西側の地域でいいますと、同じゾーンに高齢者の方が中心的に使われる豊寿荘、それと全年齢の方が使われる西公民館、類似したような施設が横に並んでおります。先ほどから御指摘いただいております。片や利用料が要るけど、片や利用料が要らないと、こういう状況もあります。ただし、使用する目的については非常に類似しているものもあるというところで、今後、施設の再編の中で、有料の問題は置いておきまして、場所についてどうするか、複合したりとか、2つにするのを1つにしたりするとか、そういうことも併せて議論しておりますので、ちょっとまだ利用料についてはその後になるのかなというふうに思います。ここで私が大きく申し上げるわけにはいきませんが、東西にある施設をどうするかということも問題になっておりますので、それだけ申し上げておきます。

以上でございます。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

成果報告書の81ページをお願いします。決算書は107ページです。小事業名・障害児通所支援等事業です。令和2年度が3,670万5,000円、令和元年度の決算が3,092万円ということで、令和2年度決算は約20%ぐらいのアップになっておりますが、これはこの81ページの右上に各年度ごとの人数が書いてあって、令和2年度は令和3年と比べて5人ほど増えているという、その増えているのが要因というふうに考えておったらいいんでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

中谷福祉課長。

○福祉課長（中谷 匠君）

福祉課、中谷です。

こちらの主な要因につきましては、主要施策成果報告書81ページの放課後等デイサービスということで、26人の利用が令和2年度にあったんですが、令和元年度では17人であったものが26人になったということで、要因としましては、東ときわ台に放課後等デイサービスを行う施設の開設が令和元年9月にされていますので、それに伴う増加と、あと転入者や新規利用者の増加というものが主な要因となっております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

それでは、ちょっと私のほうから。

報告書の95ページ、先ほどの質問と関連するんですけども、この永寿荘と豊寿荘の老朽化が非常に進んでいるということなんですけれども、令和2年度決算でトイレの改修事業とかで増額になっているんですが、これは特定財源に入っているんですけど、この施設が老朽化しているんですけども、今後、この維持管理経費というの

は、修繕費とかいうのはかなり増加していく傾向にあるのでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

小森健康増進課長。

○健康増進課長（小森 進君）

健康増進課の小森でございます。

町が今所有している施設、特に古い施設については、どこもそういうリスクを背負っていると思います。私どもが中心にやっています保健福祉センターもそうですし、管理しております豊寿荘、永寿荘についてもそうだと思います。

ですから、このままいくと、やはり修繕費がかさんでいくのかなというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（寺脇直子君）

修繕費がかさんでいくのが予測されるなと思うんですけども、本町は高齢化率がすごく高い状況がこれから進んでいきますので、今後、まちづくりの観点も含めて、超高齢社会になる町の中でこの施設をどうしていくかというところは、非常にまちづくりとも関わってくると思いますので、今、本町の財政が厳しいので、歳出を削減していかないといけない一方で、こういう修繕費がかさんでいくということなので、ちょっとそのあたりをどのようにしていくのが一番ベストなのかというのを、今すぐ答えは難しいと思いますが、検討して。

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

総務部、仙波です。

今後、町全体の施設、今、小森課長もおっしゃったように、どこも大分老朽化が進んでいます。

さっきから出ておりますけど、そういった点を含めまして、大分遅くなってぎりぎりといいますか、今すぐにでも動かさな

かん状態なんですけれども、豊能町全体の施設をどう考えるかということで、遅ればせながらと言いますか、今、きちっと将来的なことも考えて、町全体の施設をどうするかということのを再編検討委員会の中で議論をしております。その結果を基に、今後、町全体として施設をどう考えていくかという方向性をまた示したいと考えております。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。よろしいですか。

それでは、ないようですので、ここで暫時休憩いたします。

次は124ページの衛生費から134ページの清掃費までの御説明を願います。

再開は16時といたします。

（午後3時46分 休憩）

（午後4時00分 再開）

○委員長（寺脇直子君）

それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

124ページの衛生費、保健衛生費から139ページの清掃費までを御説明願います。134から清掃費が始まって139ページまであります。

順次説明を求めます。

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

環境課の星原です。

衛生費、環境衛生費からし尿処理費までとなります。

主な事業について説明させていただきます。

事業評価主要施策成果報告書122ページ、決算書134ページを御覧ください。

広域ごみ処理事業、負担金補助及び交付金関係になりますが、豊能郡環境施設組合負担金5,033万2,000円の支出となりますが、この負担金は前年度2,455万3,

000円に対して大幅に増額しておりますが、その要因として、大阪府から派遣された環境監の person 費による一般管理費の増額と、ダイオキシン対策費として、廃棄物の処分場設置に関する環境アセスメントの事前調査事業の増額、この2つが主な要因となります。

大阪湾広域臨海環境整備センターへの負担金は、49万3,000円になりますが、それは平成30年度、台風の被災に伴う災害復旧事業委託に伴うものです。この負担金は単年度のみとなります。

続きまして、事業評価主要施策成果報告書125ページ、決算書136ページを御覧ください。

ごみ収集事業ですが、事業費が9,209万6,000円となります。前年比約5%増となっています。これは資源ごみ収集委託料について消費税の増税や諸経費の値上げ等により契約金額が上がったため増額となっています。

続きまして、事業評価主要施策成果報告書126ページ、決算書136ページを御覧ください。

し尿等処理事業ですが、事業内容は衛生センターの維持管理及びし尿くみ取り等に要した経費であります。し尿等処理事業の事業費2,516万4,000円を支出しておりますが、前年比約5%増となっております。これは衛生センターの保守管理委託料について、増税や諸経費の値上げ等により契約金額が上がったためです。

また、衛生センター施設設備整備修理事業1,534万9,000円を支出しております。内訳として、衛生センターの施設設備整備修理事業と衛生センター屋外配管補修工事の合計金額となります。

事業内容については、衛生センターの設備修理について計画を立てて、施設の機能

保持のために計画的に取り組んでいるものです。

なお、特定財源については、摂津市からの負担金になっております。

説明は以上です。よろしくお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

それでは、これより質疑を行います。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

まず成果報告書126ページのところで、し尿等処理事業として余野の下之町のところでされています。本町分が321で受入れは752.3と受入れのほうがすごく多いわけで、多分前も言ったことがあるんですけど、本町分だけほかで、もしほかで処理させてもらうところを見つけよ、というのは難しいかもしれないけど、それがかなえば、あそこになくてもよくなる話かなと思うんですけど、例えば、施設も老朽化されているし、今後どのように考えていらっしゃるだろう。

○委員長（寺脇直子君）

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

環境課の星原です。

摂津市からの受入れ分が752.3で豊能町のほうが321キロリットルという形になっておりますが、こちら両方とも年々減少していることは確かです。豊能町もどちらかに持っていくところがあれば、そのように検討したいとは思いますが、なかなかそういうところがございますので、廃棄物処理法上は基本的にはごみが出たその土地ですというのが原則になっておりますので、今後、どちらかにもし委託とか、摂津市から受け入れているような形でできるような体制を整えれば、そういう形で考えたいと思いますが、今現状ではそういうと

ころは見つかっておりませんので、今の体制を整えるという形になると思います。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

であれば、ごめんなさい。一般質問的になってしまふかもしれないけど、この間、環境施設組合議事を傍聴させてもらったときに、私も別のときにも言いましたけど、環境施設組合の責任下でおかれている一般廃棄物と、あと、このし尿処理場を2つ同じ町で抱えるのは嫌だと言っている人々がいて、その話を代弁したこともあるんですけど、何かそういうことを町長が捉えて、個人的な感情とおっしゃった気がして耳を疑ったんですけど、いやいや、負の施設が2つ要らないというのは、ある一部の個人的感情とってしまうには、町長の管理者としてのお立場、それから豊能町長としてのお立場でそれはちょっと不適切な言葉だったんじゃないかなと、ちょっと耳に引っかかったので、ごめんなさい、この間の話でもありますし、いかがですか、町長。

○委員長（寺脇直子君）

塩川町長。

○町長（塩川恒敏君）

一般質問みたいな感じでございましたね。環境施設組合の管理者としては、今の考え方で、今回のし尿処理に関しても、いわゆる廃棄物という部分は、その市町村が処理をしていかないといけないということですので、まずは適切な処理ができるかどうかというところを考えているところです。

し尿処理に関しては、ほかの部分もそうですけれども、広域全体として受入れ先があるとか、そういうことであれば、もちろん検討はしてまいりますけれども、今はこのし尿処理場自身をどれだけ延命させなが

ら、管理をしていくかということが課題でございまして、それに取り組んでいきたいと思っております。

○委員長（寺脇直子君）

井川委員。

○委員（井川佳子君）

この衛生センターなんですけれども、これは公共施設検討委員会の中には入っていない建物ですか。

○委員長（寺脇直子君）

川村副町長。

○副町長（川村哲也君）

副町長、川村です。

この衛生センターにつきましては、前回、第2回の公共施設検討委員会の中でも検討施設の対象となっております。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

私が勘違いしてたらごめんなさい。あのとき極めて大事な施設で、以前の副町長のほうから、これを対象の中に入れるのはどうかという御意見が出ていたように思ったので、ここの処理センターは、私は今回の公共施設再編から外れたと、あのとき理解したんですが。違いましたっけ。

○委員長（寺脇直子君）

川村副町長。

○副町長（川村哲也君）

対象施設の検討に入ります。まずは町のほうで考えよ、ということにはなっております。町の中でまずは考えた上で、またこの中で必要に応じて検討委員会の中でも議論する可能性はあるということで申し上げます。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

それは今後のことですので、この場では

ちょっと関係ないのであれですけど、このし尿処理センターの持っていつてる本町分、321キロリットルの内訳なんです。

126ページの内訳についてお尋ねします。

これは個人のお宅から持ち込まれているのは何件ぐらいあるのか。それとあと工事現場で使った簡易トイレがありますね。そういったケースもあると思っておりますので、内訳を教えてください。

○委員長（寺脇直子君）

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

令和3年3月現在ですけども、一般家庭19世帯、事業所が5か所になります。工事現場などの臨時くみ取りにつきましては、令和2年度の決算で148回となっております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

単純な話、この個人のお宅の19世帯、事業所5か所、ここが水洗トイレになったら、うちのこのし尿処理施設は必要ないというふうな認識でよろしいんですか。

○委員長（寺脇直子君）

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

議員のおっしゃるとおり、水洗になったら必要ないというんですけども、工事の現場などの臨時くみ取りというのは、トイレは必要になりますので、そちらのほうと、それと高山地区の浄化槽汚泥というものもありますので、そちらの受入れも必要になってきますので、いずれにしても衛生センターは必要かと考えます。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

個人は水洗にしてくれたらありがたい。ですけども、この工事現場というのは、その市町村の中で工事をして簡易トイレを使っていたら、その市町村のところに持っていかないといけないんですか。そういう法的なものがあるんですか。多分に摂津から来ているところも工事現場のも来ているんじゃないかなと。だからその町で工事したらその町で処理しなくちゃいけないのかな。工事現場なんか関係ないように思うんですが、いかがですか。

それともう1個、どうしようもないのは高山ですね。高山がある限り、どうしようもないって大変失礼でした。言葉を間違えました。ちょっともといです。

高山の合併浄化槽は、あれはいきさつもよく存じ上げていますので、下水を作るよりはこっちのほうが安いだろうということで作っていますので、合併浄化槽がある限りは、たとえ個別の方が水洗トイレになったとしても無理だということに理解してよろしいでしょうか。

この2点をお尋ねします。

○委員長（寺脇直子君）

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

工事現場のくみ取りというのは、原則、廃棄物処理法上、その市町村で処分をするというのが原則になっております。

それと高山地区の浄化槽汚泥というのが水洗になったら浄化槽ではなくなって下水に流すという形になりますけども、今のところ下水の計画がありません。それと今現在では下水の計画の中に高山地区が入っておりませんので、それも衛生センターで処理しないといけないという形になっております。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

高山は、下水を作る経費を考えたら大変だから、確か、合併浄化槽を選んだと思います。それを選んだ以上、豊能町はし尿処理センターを持っていなくちゃいけないという理屈ですよ。まずこれを確認いたします。

それと、さっきの工事現場なんですけども、ということは、令和2年148回、豊能町の中での工事があったという理解でよろしいですか。私はよそから持ち込まれたような気もしますが、ここのあたりはいかがですか。これは確認いたします。2点。

○委員長（寺脇直子君）

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

先ほどの148件は延べになりますので、同じ工事現場でも何回も出ているところもあります。

○環境課主幹（杉田庄司君）

環境課、杉田です。

高山の件なんですけど、実は以前、とよの再始動計画でその件を深く検討した結果、高山地区に下水道を引こうとしたら、まず区域内に接続することが必要、当然それに係る費用が、試算ですけど、12億6,000万円かかります。

それと、各家からその下水道の本管に引き込むのに300万円負担してもらわないといけませんので、それを考えたら、今の状態を続けることがベストではないかという結論が出ております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

ですから、し尿処理センターは豊能町に

置いておかなくちやいけない施設だということは分かりました。

それで、これも建ってから相当年月がたっていると思いますが、もし分かるようでしたら、作って何年になるかだけ、ちょっと余談で申し訳ないんですけど、教えてください。

○委員長（寺脇直子君）

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

環境課の星原です。

平成元年竣工になりますので、33年目になると思います。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

決算書の127ページ、成果報告書の100ページになります。ここは今回の範囲に入っていますよね。

○委員長（寺脇直子君）

入ってます。139ページまでです。

○委員（中川敦司君）

小事業名・成人健康増進事業ということになっていまして、これが令和2年と令和元年の決算の額の比較で、約30%程度額が令和2年度は減っておりますけども、このあたりの理由は何でしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

小森健康増進課長。

○健康増進課長（小森 進君）

健康増進課の小森でございます。

昨年度の、大阪府下も含めまして、がん検診、先ほどからその都度お話をさせていただいていますコロナ禍によりまして、やはりどこも減少傾向ということがデータで出ていました。

私どもの町におきましては、やはり、全体のがん検診2割減ということになっております。ちょっと全部は申し上げませんが、胃がん検診、そこに加えてございます。昨年度319人、これは令和元年度でありましたら545人の方に受診していただいていた。トータル的にいくと、やはり検診を控えている方が非常に多かったのかなということが分かっております。

それではいけないなというふうに思いまして、保健師のほう为中心的に頑張ってくれたんですけども、先月の月末あたりに、今まで受診できていない方で受診できる方についてはがきでの勧奨を行わせていただきました。すると翌日からばんばん電話が入りまして、確かにこちらからのアプローチというのは非常に大切なのかなというふうに感じています。一般的な風潮でいきますと、検診はやっていないんじゃないかなというふうに思われている方もいらっしゃるようで、他の事業でいきますと、例えば特定健診なんかでも、ちょっと先生方、ワクチンの関係がございまして、本格的に導入できていないという部分がありますので、まだそういう検診関係ができていないんじゃないかなというように思われている方もいらっしゃるのかなと思ひまして、今回、はがきを送りましたら、その翌日からじゃんじゃん電話がかかってきて、いい効果なのかなと思っているんですが、昨年につきましては、ちょっとそこまで我々も手が届きませんでしたので、2割減という現状になっております。

以上でございます。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

このがん検診ですけども、去年から東地域で女性の乳がん検診とか子宮頸がん検診

を何とか議会で取り上げて、実施していただいと、非常にありがとうございます。特に東地区の関係の方にいろいろお会いして聞いていると、希望ヶ丘集会所でそんなのできるのと言って、知らない方も結構いらっしゃるような感じで、そういった意味で、もうちょっと知ってもらおうとか、そういうふうなことも必要なんじゃないかなと思ったので、意見を言わせていただきますけども、どうでしょうかね。

○委員長（寺脇直子君）

小森健康増進課長。

○健康増進課長（小森 進君）

健康増進課の小森でございます。

確かに、中川議員のご提案によりまして、昨年度から希望ヶ丘の自治会館をお借りいたしましたして、検診をさせていただきました。

確かに、まだまだ浸透はしていないのかなと思われまます。ただ、先ほどもちょっと言いました特定健診につきましても、実際に公民館から自治会の集会所をお借りしてやっているという事実もあります。だから検診業務については、希望ヶ丘の集会所でやるのが徐々に根づいてきているのかなと思うんですが、まだまだPR不足というところもございまして、先ほど申し上げましたはがきについても、逆に希望ヶ丘の集会所を指定してこられる方もいらっしゃったので、若干浸透はしてきているのかなと思うんですが、その辺については、さらに受けていただけるように何らかの手だてを考えていきたいと思ひます。

以上でございます。

○委員長（寺脇直子君）

中川委員。

○委員（中川敦司君）

続きまして、成果報告書の101ページ、決算書は127ページになります。

この成果報告書101ページの事業名が

予防接種推進事業ということで、これにつきましては、令和元年と比べて1.5倍ぐらいの決算額になっておりまして、このあたりの要因というのは何が考えられるんでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

小森健康増進課長。

○健康増進課長（小森 進君）

健康増進課の小森でございます。

ちょうど昨年の9月会議におきまして、高齢者のインフルエンザの無料化の部分で補正をさせていただきました。ちょうどその部分が総額の要因になっているのかなと思ひます。

ちなみに、そこに書かせていただいている昨年度の高齢者のインフルエンザの接種者につきましては、6,746名ということで、これはコロナウイルスの接種のときにもちょっとお話させていただいたんですが、65歳以上の方の約75%の方に接種いただきました。

その前の年はといいますと、4,218人でして、大体この辺の人数で推移して行くんですけども、昨年度は無料化ということもございましたので、この人数になって、その増えた人数が増えた要因になったということになります。

以上でございます。

○委員長（寺脇直子君）

よろしいですか。

ほかに質疑はございますか。

中川委員。

○委員（中川敦司君）

中川です。

成果報告書の99ページ、決算書が125ページです。

この成果報告書99ページの事業名が保健衛生推進事業という名前になっておりまして、これにつきましては、令和元年の決

算と比べて令和2年の決算が大体2.7倍ぐらいになってございまして。このあたりの要因とかはどのように考えておられますか。

○委員長（寺脇直子君）

小森健康増進課長。

○健康増進課長（小森 進君）

健康増進課の小森でございます。

昨年度に補正のほうをお願いしました。これは何かと申し上げますと、その成果報告書にございます豊能広域こども急病センターの管理運営費負担金でございます。これが昨年度221万9,894円ということになっていますが、ちなみに令和元年度で申し上げますと、23万59円となっております。この増額の部分を昨年度補正をお願いしたわけなんですけど、これは何かと申し上げますと、ここの急病センターなんですけど、やはり患者様の数がかなり減りまして、ここで構成しています団体のところから補助と言いますか、負担金を増額するために補正させていただきましたので、この差額が大体200万円ぐらいの分になるんですけど、この分が増額ということになってございます。

以上でございます。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

135ページの塵芥処理費のところの中に入っているんだと思いますが、昨日質問させていただいた吉川の土地ですね。あれはどこに入っているのかまず教えてください。

○委員長（寺脇直子君）

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

環境課の星原です。

ごみ収集事業の中に入っておりますので、主要施策成果報告書125ページ、こちらのほうのごみ収集事業の中に入っております。

○委員長（寺脇直子君）

決算書では137ページです。

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

環境課の星原です。

決算書につきましては、137ページの13・使用料及び賃借料の物件使用料、こちらのほうになります。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

私の記憶ではやっぱり60万円前後で、昨日も確かそういうお答えだったと思うんです。ここは百何万円になっちゃっているんで、この差額というのはどういうものなのかお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

物件使用料の内訳ですけども、先ほどお話がありました、吉川のパッカー駐車場、こちらのほうが60万円で、チップ作業所というのが切畑にあるんですけども、そちらのほうが38万4,000円、それとチップ作業所に職員が行きますので仮設トイレを借りておりますので、そちらのほうが残りの3万2,000円ぐらいです。そういう形になっています。トータルで107万円という形になっております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

一般質問をするつもりはないですけども、

やっぱり60万円は大きいです。せっかくあそこに新しい駐車場も作りました。消防署の横に。やはり職員の作業の効率を考えたとしても、吉川支所のそばにパッカー車を持っていったほうがいいと私は思っていますので、何かしらの工夫はしていただきたいと思います。それで60万円をぜひ浮かせていただきたいと、要望です。お答え願います。

○委員長（寺脇直子君）

大西住民部長。

○住民部長（大西隆樹君）

住民部の大西でございます。

議員おっしゃるとおり、私も昨日も申し上げましたとおり、同じようなことを思っておるところでございます。ちょっと私ども住民部の一存ではなかなか難しいところもありますので、関係部署等と調整しながら経費削減に努めてまいりたいと思っております。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

成果表の124ページ、決算書では137ページなんですけれど、ごみ資源化事業です。

右上の表には登録団体13団体、回収や報奨金事業、協力金とか書いてあります。この件で、豊能町が独自に集めている資源化のものと、それから集団回収で集めておられる資源、これは豊能町が集めた場合は豊能町の収入になるんですか。豊能町の収入になるのかどうか。委託されて委託料を払ってはおられると思うんですけれども、その点を明確にしたいと思っておりますので、お聞きいたします。

○委員長（寺脇直子君）

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

行政回収については豊能町の収入になっております。売るところと収集するところが別になります。それで相殺するということはありません。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

私も今ちょっと集団回収も、以前よりは多少減ってきたというふうにも言われておりますけれども、しかしここで上げられている報奨金は178万7,670円という格好で、従来から少しずつ下がっているのかなと思いますけれども、しかしこれだけの量があって、この資金が自治会や子ども会の運営資金にもなっているということでは皆さん喜ばれていると思うんですけれども、豊能町としてはこれはどちらが多くなっても別に構わないというように思われているのか、やっぱり町に収入があったほうがいいのかなと私も思いますけれども、集団回収のほうにしっかりと出して、皆さんが自由に使われる、自治会も運営資金として使えるというようなこともあるので、そこはそこで考えているんですけど、その点のことについては豊能町は何もその点は考えておられない。それは今の状態でよろしいですか。ちょっと確認します。

○委員長（寺脇直子君）

杉田環境課主幹。

○環境課主幹（杉田庄司君）

環境課、杉田です。

まず2つの紙類の回収があると思います。一つは決算書124ページに載っておりますように、子ども会とか自治会が集団回収される分。それは当然、住民さんの意識として、子どもたち、老人会、自治会の中で

使ってもらえる予算として大事にしていた
だくもの。

それから行政回収の場合は、月に1回し
かやっておりますので、そこまで待てな
い方は当然集団回収で出していただくと。

町としましては、集団回収の増加も、そ
れから行政回収での紙量の増加も両方願っ
ていると。だからどちらが得で、どちらが
損というより、町全体としてリサイクル化
が進めばそれでいいという考えであります。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

リサイクルができていくという意識とい
うのはすごく大事なことだと思いますし、
豊能町はそういう点ではダイオキシンが出
たときにはそういう意識がすごく根づいて、
皆さんそれぞれ頑張っておられますので、
両方にも、重たい新聞の場合は便利なほう
に出したりとか、何かいろいろ考えて出し
ておられます。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

今の関連なんですけど、137ページの
ところですね。ごみの資源化事業、これは
子ども会とか自治会ですね。その下のとこ
ろにありますごみ収集事業の12番の委託
料、これは多分瓶とか缶とかペットボトル
とかですよ。ということはこれも資源で
すよね。資源に回していますよね。これを
なぜごみの収集事業に上げるのか。私は当
然その上のごみ資源化事業に入るんじゃな
いかと、ここのところをどのように判断さ
れているのかお尋ねします。

○委員長（寺脇直子君）

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

ごみ資源化事業のところに入れていない
というのは、ごみ収集事業の中でほかにも
委託料という形で一本化してしまっている
というのがあるんですが、確かに議員がお
っしゃるとおり、性質的にはごみ資源化事
業になるかもしれませんが、収集事業
が始まってからずっと委託料の中に入っ
ているという形になっております。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

ぜひこの後分けていただきたい。出なけ
れば、豊能町はごみの資源化に対してたか
だか230万円しか使っていない、でも実
際は違いますよね。確か瓶でも缶でも年間1,
000万円ずつぐらい投資して、この八千
何百万円になっていると思いますので、や
はり町の取組として、この決算の上げ方
では一生懸命取り組んで非常にもったいな
いものがありますので、今後考えていただ
きたい。いかがでしょうか。

○委員長（寺脇直子君）

大西住民部長。

○住民部長（大西隆樹君）

住民部の大西でございます。

過去からの経緯でそのままというよう
なところもありました。ただこの分は国崎
に持って行ってしっかりと資源化されてい
るものでございますので、資源化事業のほう
にまた予算要求時に検討させていただいて、
資源化回収の分については、そちらに回す
ことをまた検討させていただきたいと思
います。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

○副委員長（西岡義克君）

決算書の135ページ、主要施策成果報
告書の122ページの豊能郡環境施設組合

負担金5,033万1,394円、これはもう早いこと解決しないと、今、豊能町も非常に財政が厳しい中で、こんな無駄なあれを使うことはないし、本当に今回の監査委員さんの報告書を見ても、町長が本部長になって全職員が本部員として共通の認識の中で財政再建を図れと、持続可能な財政運営を進めよというように書いてあるわけです。そこにある今の幼稚園の跡にあるやつは安全なものやということになっていますね。それは大阪府のほうからも安全だということをお願いしておりますし、感情論はそれはあると思うんですよ。フェニックスでもそうです。あんなものは感情論ですわ。だけどやっぱり安全第一で保管できるのはあそこしかないやろうと、今、5,000万円と言っているけども、組合が解散したら職員も帰ってくるわけですよ。だから総務部長も財政の面も考えたら、確実に財政的な面でプラスになるし、一般の住民さんに対しても、ただ今言っている地域の人が2か所もそういう施設は要らんとかいう話があるんですけど、それは感情論で。

それと、僕は一般質問でちょっときつい言い方をしましたが、町長は選挙公約で勝っているわけやから、大半の人が認めているわけやから、選挙公約にあるんやから、これはきっちりやってもらわなあかんと思います。

これはやっぱり昔、能勢は物すごい風評被害で大変な思いをしたんですよ。私も施設組合の副議長をやりましたけども、それはあのときは大変でした。猛毒やと言われたときです。皆の認識も薄かったし、だからいろんな会議もしたし、いろんなこともあって、東京まで行って10億6,000万円の国からの補助金ももらってやってきたんですよ。それは豊能町は何をしてるねんと、能勢から非常に辛辣な意見をいただ

いているんですよ。それは今は皆さんもダイオキシンがそんなもんやというのは大体分かったし、あれは完全に処理されているというのも分かっているわけです。昔はそれがなかったんです。それでも能勢は頑張っってここまで来たわけですよ。あとは豊能が責任を持ってやらんと、これは豊能町は五千何万円やけど、能勢も出しているんでしょ。豊能だけとちやいますやん。

だからどちらかという、町長のあれで強制執行したって構わないんです。ただ、強制執行するには、協力していただいている余野のかたに十分な協力補助金みたいな形で、自治会が活性化するようなことを考えて、前向きに対処せんと、だから決算の委員会や監査委員さんがこれだけのものを出すことはなかったです、今まで。僕は何回も監査委員の意見を聞いているのかと決算委員会で言いました。いまだにこれですやん。結局こないなってもうたんです。こんなぎょうさん今まで監査委員が出したことない。意見書。まして、これにも出しているんですよ。こんなの今まで出たことないですよ。去年は留意事項でした。今年、令和2年度は留意事項やないけど、意見書が出ています。

だからこれは、決算委員会として、この無駄な予算は前向きに、住民さんのためにきちっと町長が執行せなあかん。どうですか。それが結局、総務部長も含めて、全員のやる気になるわけですよ。みんなでやらなあかんわけです。我々議会も協力しますから。今やらんと、余野の自治会でも言いました。ワンチャンスのラストチャンスやでって、これこのまま強制したって、あんたら止められへんよと。だけどそれはあなた方の協力があっってこそできるんやと。それは感謝してくれませと。余野が皆から尊敬されませという話はしています。だ

からみんなで、こんな小さい町や、みんな
でやらなできへんですやん。何ぼ町長が頑
張っても。我々も協力するんやから。この
予算はできたら令和4年度からはゼロ。そ
の分は余野の活動資金なり、協力資金なり
という形で持って行ってあげたほうが、私
は最高のあれやと思います。どうですか。

○委員長（寺脇直子君）

塩川町長。

○町長（塩川恒敏君）

ありがとうございます。気持ちは同じで
ございますけれども、今回の決算委員会、
これに関しては分担金ということござい
ます。これを減らしていくということは長
期的、それから全体的にも必要な内容で
ございます。

処理に関してというので、私どもは組合
の理事者でありますので、これについては
しっかりとやっていきたいということで、
早期に解決をしていくということは、私の
公約でもありますし、念願でもあるし、絶
対にやっていきたいと思っておりますので、皆
さんも御協力のほどよろしくお願い申し上
げます。

○委員長（寺脇直子君）

西岡副委員長。

○副委員長（西岡義克君）

昔、組合の職員さんは何て言われたか、
町長知りまへんやろ。ごみ流し、島流しと
言われましたんやで。それでも頑張ってきた
んですよ。今解決しないと、その人らが
ずっとやってきた思いがほごになります。
私はそのことを知っているから、だからみ
んなで一つになってこれを何とかせんと駄
目ですよ。その辺、大きな決意でお願いし
ます。

○委員長（寺脇直子君）

それは要望ですか。

ほかに質疑はございますか。

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

成果表の133ページです。決算書は1
35ページ、123が成果表ですね。13
5が決算表です。

ここにごみの減量化事業ということで、
皆さんコロナ禍でもしっかりと集めていた
だいて、本当に感謝の気持ちでいていると
いうことを、御近所の皆さんもそうおっし
やっていました。

そういう中でごみ減量に努めてきたわけ
ですけれども、理想は1日当たり750グ
ラムというふうにも書いてあります
けれども、右側の上の欄にも書いてあるけ
ども、比較的近い数字になってきていると
思うんですね。そういう点で、一番下の段
にも分別やごみ減量化を推進していくとい
うふうにも書いておられるので、改革プラン
ではごみ有料化も書いてありましたけれど
も、これが1年先、2年先ではほぼ基準に
基づいて減量になっていくんじゃないかと、
自然減みたいな形で、ですから水切りもし
っかり皆さんしてきていると思うんです。
ですからこういうふうにも改善も減量もされ
てきていると思っておりますので、私はここで
ちょっと先走りしますけども、有料化はしな
いでくださいということを言いたいです
けどね。まずそれをちょっと求めておきた
いと思ひまして、せっかく決算で出てきて
いるわけですから、この数値も見ていたら、
比較的既定の量に近づいているということ
では、皆さんが努力をしておられるし、本
当に意識の高い住民の皆さんだと思ひませ
んか。そういうところで有料化はぜひ避け
てもらいたいと、そういうふうにも思ひます。
これは要望でございます。よろしくお願い
します。何かありましたら。

○委員長（寺脇直子君）

大西住民部長。

○住民部長（大西隆樹君）

住民部の大西でございます。

本当に住民の皆さんの御努力によりまして、ごみが少なく抑えられているというようなことは私も本当にそのとおりだなというふうに思います。

ただ、この数字というのは、今コロナ禍の中であって、家庭のごみが増えたり、減ったりというような状況ですので、この数字が続くのかどうかというのはもう少し様子を見なければならぬというふうに思っています。

そんな中で、今後、もし増えていくようなことがあるというようなことがあれば、やっぱり努力いただいている方と、残念ながらそこまで神経を使っておられない方もいらっしゃることはいらっしゃると思います。その方たちの区分と言いますか、区別と言いますか、それなりの応分の負担はしていただく必要があるのではないかなというふうに、将来的にはそういう可能性もあるというふうに思っておりますので、引き続き、ごみの量を見ながら、有料化については検討してまいりたいというふうに思っております。

○委員長（寺脇直子君）

高尾委員。

○委員（高尾靖子君）

丁寧にお答えいただきましてありがとうございます。

ごみを出すときに、本当にナイロンの袋だけで出す人と、段ボールをびしっと中に入れて、箱のようにして出して、段ボール分がすごく重たくなっているというような、目の前をずっと見ていたらそういう方もあるんですね。あれは大分量が増えているやろうかと、やっぱりプライバシーを守りたいという思いがあるし、透明の袋に入れなさいということになってきていますからね。

半透明でもいいんですけれども、それ以前にもっと守りたいという意識の人もおられて、段ボールでがっちとしてはる人もおられるので、その点では、もうちょっと減量してくださいというふうなことを言いにくいでしょうね。なかなか言えないと思うんですけれども、そういうのは特別な場合は何かおっしゃっているのかなというふうに思うんですけれども、そこまではなかなか文句というか、注意というか、それはできないのかなと思いますけど、そういう点はどうなっていますか。

○委員長（寺脇直子君）

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

収集の者からそのような報告は受けていないんですけれども、高尾議員がおっしゃったようなのは、ひょっとしたらカラス除けで段ボールをかぶせているのかなというような、そうじゃないんですか。そういう気もするんですけれども、こちら豊能町としては、段ボールは資源ごみとして出してくださいという形で重々お願いしておりますので、今後もそういう形で啓発に努めたいと思っております。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

ちょっと確認させてもらいます。成果報告書の123ページ、ここに一人当たりの一日のごみ量750グラム、令和元年は758グラムと書いていますが、これは燃えるごみだけですよね。さっき決算で資源化のところとごちゃごちゃになっていましたので確認したいと思います。

○委員長（寺脇直子君）

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

燃えるごみだけでなく、全てのごみを
集めての量になります。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

秋元です。

その全てのごみといったときに、さっき
の決算書では瓶も缶も入っているような書
き方になっていたから確認しているんです。
瓶も缶も入れていませんよね。資源化の分
は抜いていますよね。

○委員長（寺脇直子君）

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

環境課の星原です。

瓶・缶も全て家庭と事業のごみ排出量
の中に入っております。

資源化のごみについては、ペットボトル
であるとか、紙資源とか、そういう形のも
ので資源化量というのをカウントしており
ます。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

申し訳ないです。なぜ聞くか。ここ最近、
全国でごみ減量化に取り組んでいるランキ
ングというのがあったんです。もしかした
ら御存じかもしれない。その中に豊能町は
ない。引っかけりもしない。ついこの間、
公書調停で、やれ半分にする何なりする
といったけど、引っかけりもしない。これ
はどういうことかと思って、ひょっとして
瓶も缶も何も全部一緒くたにしてこの一
日の量が出ているのかなと思ったんです
が、どうもそうなんです。燃やすごみな
のかどうか、ちょっとお願いします。

○委員長（寺脇直子君）

杉田環境課主幹。

○環境課主幹（杉田庄司君）

環境課主幹の杉田です。

ごみ減量化担当ですので、お答えさせ
ていただきます。

まずごみ量の考え方につきましては、今
までからごみの排出量、家庭ごみ、事業
ごみ全部足して、それから一日当たりの
排出量を出しております。それが782
グラムです。

資源化目標については、元の数値が違
う。これは生活系ごみ量、家庭、集団回
収、店頭回収というお店がやってはる
トレイとか、そういうのも含めた中で、
どれだけ資源化できているかというこ
とですから、母数が違うのが一点。

それから、秋元委員がおっしゃって
いるように、全体の中で豊能町は782
という計算式を出していますが、確か
に大阪府内でも750を切っているところ
も私が見たことがありますので、決して
全国上位何位に入る数値ではないと思
っております。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

しつこく聞いて申し訳ない。

○委員長（寺脇直子君）

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

ごみ排出量の数値は瓶・缶も入って
おります。全国統一でそういう形の見
解になっております。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

ということは、家庭からこれは要り
ません、自分たちには不要ですと出
したものは、全部ここの中にカウ
ントされているという認識でよろ
しいですね。それは全国統一で

すよと。はい、お願いします。

○委員長（寺脇直子君）

星原環境課長。

○環境課長（星原健男君）

環境課の星原です。

そのとおりです。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

さっき、高尾議員はごみの有料化に反対と言っていましたけど、そもそもこれは2019年の財政再建にごみの有料化を挙げていっていませんでしたっけ。挙げていますよね。その後、これはどう検討されていますか。19から22。21まできていますね。どこまで進んでいるのかお尋ねします。

○委員長（寺脇直子君）

大西住民部長。

○住民部長（大西隆樹君）

住民部の大西でございます。

先ほども申しましたとおり、まずはその750グラムという目標に向けて今動いておりまして、そこが難しいというようなことであれば、有料化についての検討をしていかなければならないというような考えの下で動いてきておるところでございます。

今、コロナ禍の中で一時的にごみが非常に増えまして、先ほども申しましたとおり、このごみ量でもって有料化について検討を進めていくということが適当であるのかどうか。それから、今、紙おむつの問題等で非常にごみが増えておるといふようなところもございます。そういったことも含めまして、この目標値が本当に目指せる数字なのかどうかということも検討しなければならないということで、今、第2次豊能町ごみ処理基本計画というものを見直しておる最中ではございまして、もう少しこのコロナ禍が落ち着く頃まで、そういったごみの

動向というのを見ていかなければならないかなというふうに思っております。

当然、そのごみの多い、少ないによって、処理費というものも変わってきますので、そういったことを見極めていきたいというふうに考えておるところでございます。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

単にごみを減量化しようというなら、今の部長の答弁で分かるんです。そういう目標を持って、そこまで住民の方の協力が足りなかったら、じゃあ有料化という流れというのは分かるんですけど、そうじゃなくて、そもそも2019年の財政再建でしょう、これ、挙げているのは。そういう観点からはどうなっていますか。お願いいたします。

○委員長（寺脇直子君）

仙波総務部長。

○総務部長（仙波英太郎君）

総務部、仙波です。

この行財政改革プラン2019というのは、行財政改革ということで、もちろん第一義の目的は、いわゆる財政再建というところがあります。でもそれ以外の項目も含まれております。

このごみ有料化の部分につきましては、財政健全化という部分も大いに入っている部分です。単純にごみが有料化になれば、当然歳入が増えるのでお金が増えます。ところが、先ほどもありましたように、皆さん御努力をいただいているんですけれども、ごみの減量がどんどん進みまして、ごみ量が減った場合、猪名川上流広域ごみ処理施設組合への負担金が減るといふ側面もございまして。そういうところから、今現在、ごみの減量と、その辺も含めまして検討しているという位置づけになっていると考えて

おります。

○委員長（寺脇直子君）

秋元委員。

○委員（秋元美智子君）

行政としての説明は分かります。ただ、今この町はそう言っている状況ですか。非常に厳しい。貯金も少ない、減らすな、使うなど、1円でも多く積もうというところですよ。そういう時にそういうふうな状況でやっていけますかね。

だからこそ、私はやっぱり財政のために、少しでも入るものならば、今からもう検討していったほうがいいんじゃないかなと、のんびり構えていなくて。というふうな意味で質問しています。そこをよろしく願います。何で聞いているかね。

それともう一点です。さっき、ごみの七百何グラムなのか内訳を聞きまされたけども、今の目標750グラムの中には、ということは雑誌も瓶も缶も含めたキログラムですね、これは。瓶も缶も全部入ってね。ということは住民の方には物は買うなという大変な言い方だけでも、重たいものは買ってくれるなというふうな話だから、幾らそこで資源を協力しよう何しよう、あんまり関係ない話かなと思ったりしたんですが、このあたりはいかがですか。

○委員長（寺脇直子君）

杉田環境課主幹。

○環境課主幹（杉田庄司君）

環境課、杉田です。

瓶と缶を買うということではなくて、例えばですけど、使える瓶についてはまた家で別のもの使っていたりとか、缶もそうですけれど、できるだけ缶のものを買わないで、紙パックですとか、大阪府がやっておるんですが、マイ水筒を持って歩こうと、ただこれはコロナの関係でなかなかできていませんけど、大阪府内で給水箇所

を増やしたり、それから飲物を買ったり、場合によっては、関東ではシャンプーとか洗剤もプラスチックで買わないで、自分で持って行ったもので買うという方法もありますから、必要なものは買ってくださいと、ただ使い回しがきくものについてはそういうふうに考えていただいたらどうかなと思います。

以上です。

○委員長（寺脇直子君）

ほかに質疑はございますか。

それでは、124ページの衛生費から134ページの清掃費まで終わりました。

ここでお諮りいたします。本日の会議は以上で終了し、延会したいと思います。これに御異議はございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（寺脇直子君）

異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決定いたしました。

次回は、明日、9月3日午前9時30分より会議を開きます。

明日は本日の引き続き138ページ、労働費から151ページの商工費から始めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

どうもお疲れさまでした。

延会 午後5時03分

以上、会議の次第を記し、これを証するためここに署名する。

令和 年 月 日署名

豊能町議会決算特別委員会
委員長